

佐賀県文化財調査報告書第70集

# 松の森遺跡

神埼郡東香振村大字大曲所在の遺跡

1983

佐賀県教育委員会

まつ もり  
松 の 森 遺 跡

1983

佐賀県教育委員会

## はじめに

この報告書は県営圃場整備事業の施行に先かけ、実施した神埼郡東脊振村大字大曲に所在する松の森遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告であります。

松の森遺跡は弥生時代から古墳時代にかけての集落跡で、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡などの遺構を検出しました。また当時使用されていた土器、石器も数多く出土し、貴重な資料を提供してくれました。

なお調査に際しまして御指導、御協力をいただいた文化庁、県農林部、並びに地元の皆様に対しまして感謝申し上げます。

ここに本書を刊行するにあたり、文化財の保護になお一層の御助力を願うことともに、古代史の解明に少しでも役立つならば幸甚であります。

昭和58年3月31日

佐賀県教育委員会

教育長 古藤 浩

## 例　　言

1. 本書は圃場整備事業に伴い、昭和54年度に実施した神崎郡東脊振村大字大曲に所在する松の森遺跡の報告書である。
2. 発掘調査は国庫補助事業として、佐賀県教育委員会がこれにあたった。
3. 調査は、中島弘之、岩永政博が主にあたり、川崎吉剛、西田和己がこれを補佐した。
4. 本書の執筆はIV-2石器を東脊振村教育委員会主事の久保伸洋が、他を西田があたった。
5. 遺構の実測、写真撮影を調査員が、遺物の復元作業は樋口管子、中村美千代、梅野澄子、三好文子、古賀安子、中島美須三、宮崎礼子、高畠澄子、広瀬敏子、古川万鶴代、村瀬邦子、土井マサ子、新井久美、池田覚子がおこなった。遺物の実測は、山本タカ子、藤原倫子、尾形郁子、武藤直子が、製図は、藤原、貞包洋子、江副悦子、野口悦子がおこなった。遺物の写真撮影には原口定があたり、原像、焼付は古賀栄子がおこなった。
6. 本書の編集は西田があたり、写真的割付には藤原、挿図等の割付には本田京子、友貞菜穂子、江副の協力を、写真、挿図等の整理には、田中ハルミ、宮崎静子、上滝光子の協力を得た。

## 凡　　例

1. 遺構番号は遺構別に一連番号を付し、表、挿図等には地区名（1～4区）を記したものもある。遺構の分類記号として次の記号を用いた。S H：竪穴住居跡、S B：掘立柱建物跡、S D：溝跡、S K：土壤、P：ピット。
2. 寸法は遺構がm、遺物がcmで表わした。
3. 遺物実測図番号は一連番号を付し、図版番号と一致する。
4. 挿図、本文中に用いた方位はすべて磁北である。

## 本文目次

I . 位置と環境.....	1
II . 調査の経過.....	4
1 . 調査の経過.....	4
2 . 調査の組織.....	4
III . 遺構.....	6
1 . 遺構の概要.....	6
2 . 竪穴住居跡.....	7
3 . 挖立柱建物跡.....	17
4 . 溝路.....	18
IV . 遺物.....	19
1 . 土器.....	19
2 . 石器.....	38
3 . 資料の保管.....	38

## 挿図目次

Fig. 1	松の森遺跡周辺遺跡分布図.....	2
Fig. 2	松の森遺跡調査区位置図.....	5
Fig. 3	S H01~03, 05住居跡実測図.....	9
Fig. 4	S H04, 06住居跡実測図.....	10
Fig. 5	S H07~10住居跡実測図.....	11
Fig. 6	S H14, 15, 17~20住居跡実測図.....	12
Fig. 7	S H16, 21, 23, 27住居跡実測図.....	13
Fig. 8	S H24, 26, 28~30住居跡実測図.....	14
Fig. 9	S H31, 32, 36, 37住居跡実測図.....	15
Fig. 10	S H33, 39, 41住居跡実測図.....	16
Fig. 11	S D19溝実測図, 土層断面図.....	18
Fig. 12	S H01, 03, 04, 06, 08住居跡出土遺物実測図.....	28
Fig. 13	S H09, 11, 13, 15住居跡出土遺物実測図.....	29
Fig. 14	S H23住居跡出土遺物実測図.....	30
Fig. 15	S H23, 24住居跡出土遺物実測図.....	31

F ig. 16	S H25, 26, 27住居跡出土遺物実測図	32
F ig. 17	S H29, 31, 36 ~ 41住居跡出土遺物実測図	33
F ig. 18	S D19溝出土遺物実測図	34
F ig. 19	S D19溝出土遺物実測図	35
F ig. 20	S D23, 25溝, S K01, 04土壤, 1区および4区ピット出土遺物実測図	36
F ig. 21	包含層出土遺物及び手捏土器, 土製品, 石製品実測図	37
F ig. 22	出土石器実測図	39
折り込み 1	松の森遺跡遺構配置図(1)	40
折り込み 2	松の森遺跡遺構配置図(2)	41

## 表 目 次

Tab. 1	松の森遺跡堅穴住居跡一覧表	7
Tab. 2	松の森遺跡掘立柱建物跡一覧表	17
Tab. 3	出土土器観察表	19
Tab. 4	出土石器観察表	38

## 図 版 目 次

P L. 1	松の森遺跡全景（南から）, 4区全景（西から）
P L. 2	1区北側（南から）, 1区南側（北から）
P L. 3	2区（南から）, 3 A区（南から）
P L. 4	3 B区（北から）, 3 D区（南から）
P L. 5	4区北側（南から）, 4区南側（北から）
P L. 6	S H03, 04, 06~10住居跡
P L. 7	S H17~20, 23~24, 26, 27住居跡
P L. 8	S H28~29, 31~32, 38, 39住居跡, S B01, 02通物跡
P L. 9	S D19溝跡
P L. 10	S H01, 03, 04, 06, 09住居跡出土土器
P L. 11	S H08, 11, 15, 23住居跡出土土器
P L. 12	S H24住居跡出土土器
P L. 13	S H25~27, 38, 40, 41住居跡出土土器
P L. 14	S D19溝出土土器
P L. 15	S H24, 40住居跡, S K01土壤, 1区P16, P40,

P291出土土器, 2区出土石製品, 出土石器類

## I. 位置と環境

松の森遺跡の所在する東脊振村は、佐賀県の東部に位置する東西約3km、南北約2kmの細長い村である。背振山地の南面にあたり、南麓から佐賀平野へと移行するところに多くの河岸段丘を形成している。松の森遺跡はこれらの段丘のひとつ目達原段丘に属し、通称横田丘陵と呼ばれる標高約20mの丘陵西端にあり、西側約30mには田手川が流れている。

南麓部や段丘上には以前より多くの遺跡が知られ、遺跡の宝庫ともいえる。近年九州横断自動車道建設や圃場整備事業等により、埋蔵文化財の調査件数も増大し、この地域が佐賀平野での古代史解明に大きな役割を果している。先土器時代の遺跡としては現在西一本杉遺跡の一例があるのみで、縄文時代では学史上著明な戦場ヶ谷遺跡をはじめ、寺ヶ里、山古墳、タケ里等の遺跡が点在する。弥生時代に入ると遺跡数も急激に増加し、特にこの地域の墓地は豊富な副葬品を持っている。漢式鏡3面、素環頭太刀、鉄劍、鉄釧、ガラス管王、ガラス小玉等を出土した三津永田遺跡、漢式鏡4面、小型仿製鏡2面、鉄劍、鉄矛、青銅製鋒先、ガラス小玉、貝釧等を出土し、墓地全域を明らかにした二塚山遺跡、鐵製素環頭太刀、鉄劍、船載の方格四神鏡を出土した横田遺跡をはじめ、西前田B遺跡、西石動遺跡、三田川町の吉野ヶ里遺跡、上峰村の切通遺跡、舟石遺跡等がある。集落跡では、西前田A遺跡、下石動遺跡、タケ里遺跡、松原遺跡、上峰村の屋形原遺跡、一本谷遺跡等がある。また西石動遺跡の北方では銅板鑄型が出土している。古墳時代では、前期古墳としては西一本杉遺跡がある。内部主体に箱式石棺、割竹木棺を持つ4世紀のもので、現在のところ県下で最も古く位置付けられる。中期になると古墳の数は増加し、下三津前方後円墳や三田川町の塚山、稻荷塚等の前方後円墳を中心とする目達原古墳群がある。後期では山麓部に群集墳が形成され、巨石を用いた横穴式石室を内部主体とする伊勢塚前方後円墳も造営された。古墳時代の集落跡は、浦田遺跡をはじめ、弥生時代から経続した下石動遺跡、タケ里遺跡、上峰村の屋形原遺跡、三田川町の下中村遺跡等がある。歴史時代では、8世紀代の住居跡を検出している浦田遺跡の他、下中村遺跡は平安から鎌倉時代にかけての集落跡で、掘立柱建物跡、井戸跡、溝跡等が数多く検出され、出土した輸入陶磁器等にも逸品が多く、太宰府を経由しない貿易を考えられている。寺院跡としては辛上庵寺跡、上峰村塔の塚庵寺跡がある。また背振山の中腹標高約500mの山林の中には、九州でも代表的な山岳仏教遺跡の一つである寺跡がある。

このように松の森遺跡の周辺には、数多くの遺跡が点在しており、これらの遺跡との関連を考えていくうえにも絶好の地域に位置していると言えよう。

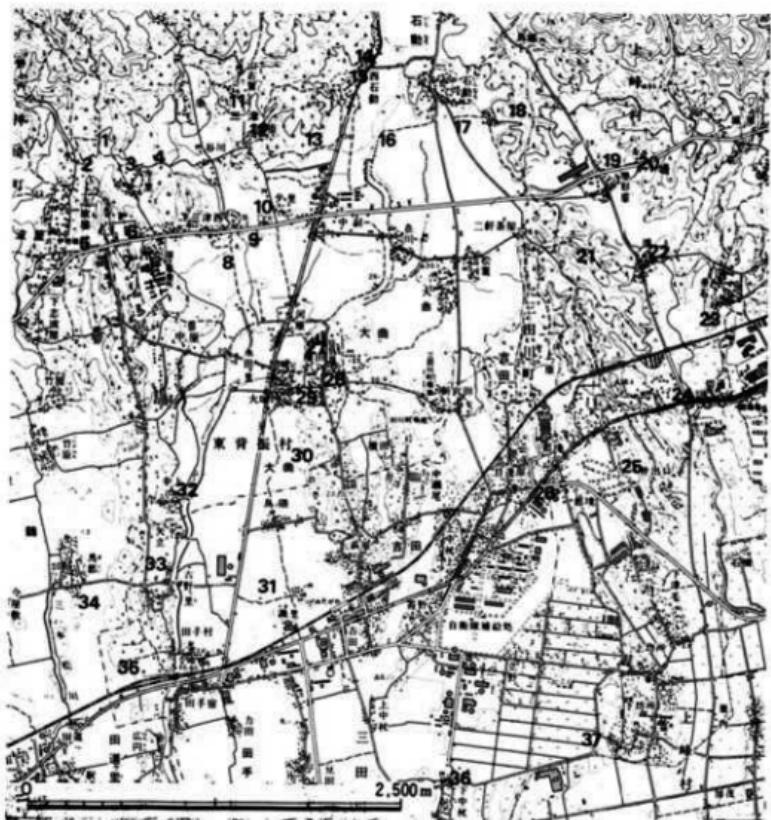


Fig. 1 周辺遺跡分布図

- |             |                |            |              |
|-------------|----------------|------------|--------------|
| 1. 戦場ヶ谷遺跡   | 11. 上三津丸山遺跡    | 21. 二塚山遺跡  | 31. 鳥ノ隈遺跡    |
| 2. 戦場遺跡     | 12. 上三津栗原遺跡    | 22. 堤土星路   | 32. 辛上廐寺跡    |
| 3. 寺ヶ里遺跡    | 13. 西一本杉遺跡     | 23. 舟石遺跡   | 33. 吉野ヶ里丘陵遺跡 |
| 4. 浦田遺跡     | 14. 西石動古墳群     | 24. 切通遺跡   | 34. 馬郡遺跡     |
| 5. 伊勢塚前方後円墳 | 15. 西石動銅戈洛範出土地 | 25. 一本谷遺跡  | 35. 田手一本黒木遺跡 |
| 6. 三津水田遺跡   | 16. 西石動遺跡      | 26. 目達原古墳群 | 36. 下中央遺跡    |
| 7. 下三津前方後円墳 | 17. 下石動遺跡      | 27. 松原遺跡   | 37. 塔の塚庵寺跡   |
| 8. 西前田A遺跡   | 18. 石動二本松遺跡    | 28. 横田遺跡   |              |
| 9. 西前田B遺跡   | 19. 屋形原遺跡      | 29. 大塚遺跡   |              |
| 10. タケ里遺跡   | 20. 谷渡古墳群      | 30. 松の森遺跡  |              |

## 註

1. 「東脊振村史」 昭和57年
2. 佐賀県教育委員会が昭和57年度に調査
3. 松尾 権作 「佐賀県考古大観」 昭和32年 純徳博物館
4. 堤 安信 「寺ヶ里遺跡」「香田遺跡」 昭和56年 佐賀県教育委員会
5. 今年度刊行予定「西原遺跡」(佐賀県教育委員会)に所収
6. 東脊振村教育委員会が昭和56年度に調査
7. 七田 忠志 「三津石蓋單棺出土内行花紋明光鏡について」「佐賀県文化財調査報告書」第2輯 昭和28年 佐賀県教育委員会  
七田 忠志 「三津水田遺跡」「教育佐賀」 昭和29年
8. 七田 忠昭 「二塚山遺跡」 昭和54年 佐賀県教育委員会
9. 木下 之治 「文化界の回顧と展望・考古学」「新郷土」1月号 昭和42年
10. 久保 伸洋 「西前田B遺跡」 昭和57年 東脊振村教育委員会
11. 堤 安信 「西石動遺跡」「九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報第4集」昭和56年 佐賀県教育委員会
12. 松尾 権作 「吉野ヶ里遺跡」「佐賀県考古大観」 昭和32年 純徳博物館
13. 金闇丈夫他 「佐賀県切通遺跡」「日本農耕文化の生成」 昭和36年 東京堂
14. 上峰村教育委員会が昭和57年度に調査
15. 岩永 政博 「西前田遺跡」 昭和56年 東脊振村教育委員会
16. 高瀬 哲郎 「下石動遺跡」「九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報第4集」昭和56年 佐賀県教育委員会
17. 東中川忠美 「松原遺跡」 昭和52年 東脊振村教育委員会
18. 紅 一義 「屋形原遺跡」 昭和54年 上峰村教育委員会
19. 上峰村教育委員会が昭和56年度に調査
20. 松尾 権作 「弥生時代の金属文化」「佐賀県考古大観」 昭和32年 純徳博物館
21. 註5と同じ
22. 「佐賀県の遺跡」 昭和29年 佐賀県教育委員会
23. 松尾 権作 「目達原古墳群調査報告」「佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第9輯」昭和25年 佐賀県
24. 註22と同じ
25. 註5と同じ
26. 七田 忠昭 「下中枕遺跡」 昭和55年 佐賀県教育委員会
27. 松尾 権作 「東脊振村辛上廐寺址の調査」「佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第5輯」昭和11年 佐賀県
28. 松尾 権作 「塔の塚廐寺址」「佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告第7輯」 昭和15年 佐賀県
29. 田平 徳栄 「靈仙寺跡」 昭和55年 東脊振村教育委員会

## II. 調査の経過

### 1. 調査の経過

東脊振村における県営圃場整備事業は昭和50年度から実施されている。昭和54年度は大曲地区が対象となり、県文化課は事業に先立ち埋蔵文化財の確認調査を実施した。確認調査は昭和54年4月に行い、その結果大字大曲字大塚ヶ里の約15,000m<sup>2</sup>に渡って弥生時代から古墳時代にかけての集落跡を確認した。同年内の工事でもあり、急ぎ工事担当の県中部農村事務所、東脊振村土地改良区等の関係各機関と協議を持ち、埋蔵文化財の保護についての話し合いを重ねた。この結果、削平部分を最小限に抑えて、掘削される水路および止むを得ず削平される部分約5,000m<sup>2</sup>について発掘調査を実施することになった。

発掘調査は佐賀県教育委員会が主体となり、7月1日から昭和55年1月31日までの7ヶ月間にも及ぶものになったが調査区域は南北に細長く伸びており、調査の便宜上1区から4区までを設定し（うち3区はA～Dに分かれる）、北の1区より調査を開始した。途中より工事が開始され、近くをブルドーザーが行き交うというあわただしさのなかで調査は進められ、調査が終了した地区から順次工事に引き渡していく方法を取らざるを得なかった。1区から4区まで部分的な調査であったのにも関わらず、各区とも遺構は密集した状態で検出した。ただ残念なことには、調査区域が丘陵の西端ということもあり、水田や畑によってかなり削平を受け、良好な遺存状態ではなかった。調査は当初計画より大分遅れたが、無事終了することができ、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡等の遺構を検出し、弥生時代から古墳時代にかけての遺物を数多く得たことは多大な成果と言えよう。

### 2. 調査組織

担当 佐賀県教育委員会

事務局 文化課（課長 田中寿義雄）

調査責任者 木下 巧 文化課文化財調査第2係長

調査員 中島 弘之 文化財調査第2係（現 多久市立東部中学校教諭）

岩水 政博〃〃（現 県立伊万里高等学校教諭）

川崎 吉剛〃〃（現 大和町教育委員会主事）

西田 和己〃〃

調査協力 県農林部、中部農林事務所、東脊振村土地改良区、東脊振村教育委員会、大曲区他地元の各位



Fig 2. 松の森遺跡調査区位置図

### III. 遺構

#### 1. 遺構の概要

調査の進行上1区から4区まで分けており、ここでは各調査区ごとにその概要を簡単に述べてみる。1区は最も北側の調査区で約1,500m<sup>2</sup>ある。検出した遺構は、竪穴住居跡7軒（S H01～07）、掘立柱建物跡9棟（S B01～09）、溝跡8条（S D01～08）である。調査区は全体的に削平を受け、竪穴住居跡は壁の残りが悪い。1区では竪穴住居跡の平面形態が他の区と違いバラエティに富んでいる。方形、長方形、隅丸長方形、円形のものがあり、隅丸長方形、円形のものは1区だけにしかみられない。溝跡はその全てが近世以降のものである。2区は約270m<sup>2</sup>の狭い調査区である。全体が削平を受け、竪穴住居跡は壁がほとんど残っていない。竪穴住居跡は5軒（S H08～12）検出しているが、他の柱穴の状況からみて竪穴住居跡はまだあったと考えられる。溝跡は5条（S D09～13）検出したが、いずれも新しい。3区はさらにA～D区に分けている。3 A区は約350m<sup>2</sup>で南北に細長い調査区である。竪穴住居跡4軒（S H13～17）、掘立柱建物跡4棟（S B10～13）、溝跡5条（S D14～18）、土壌4基（S K01～04）を検出した。掘立柱建物跡のうちS B10、12は、柱穴の掘り形が他の建物跡より大きい。3 B区は約150m<sup>2</sup>で、竪穴住居跡4軒（S H17～20）、掘立柱建物跡1棟（S B14）、溝跡1条（S D19）、土壌1基（S K05）がある。S D19溝跡は、南側が調査区域外へ伸び全容は掘めなかつたが、溝内より多量の古式土師器が出土している。3 C区は約620m<sup>2</sup>で、竪穴住居跡5軒（S H21～25）、掘立柱建物跡2棟（S B15、16）、溝跡1条（S D20）、3 D区は約30m<sup>2</sup>で3 C区の北に隣接し、竪穴住居跡2軒（S H26、27）を検出した。4区は調査区の最も南側に位置し、約950m<sup>2</sup>ある。竪穴住居跡14軒（S H28～41）、掘立柱建物跡9棟（S B17～25）、溝跡4条（S D21～24）を検出したが、4区北側や中央部には柱穴が密集しており、全体的に削平を受けていることから竪穴住居跡が他に数軒あったと考えられる。掘立柱建物跡のなかでは、3 A区のS B10、12と同様に柱穴の掘り形が大きいS B17～23がある。

今回検出した遺構は、竪穴住居跡41軒、掘立柱建物跡25棟、溝跡24条、土壌5基の他、柱穴がその半数以上を占める。調査区が部分的であり、また遺跡全体が削平を受けていることからこれらの柱穴は竪穴住居跡や掘立柱建物跡のものと考えられるが確証を受けるものはなかった。ただ柱穴のなかでも掘り方の大きい柱穴は、掘立柱建物跡と考えられるが、全体的に調査区域外に伸びるもので、あえて復元はしなかった。また竪穴住居跡は、調査区域外に広がるものや削平を受け壁がなく全容を知り得ないものが大半を占め、切り合ひ関係も掘みにくいうのがほとんどであった。調査区全体からみて、遺構は丘陵部分の東側や、調査区域外の西、南側へ広がっているものと推察される。

## 2. 穴住居跡

検出した竪穴住居跡は41軒である。その大半が調査区域外に広がったり、削平を受け壁の一部が残らないものが大半を占め、完掘できたものは少ない。時期は弥生時代および古墳時代のものだが、遺物が残存しなかったものは時期の決定を困難にしている。切り合ひ関係のある住居跡も多いが、壁の残存度が少ないので、調査時点での新旧の判断は難しく不明なものもある。平面形態でみると、1区に円形および隅丸長方形のものが1軒ずつある他は、方形、長方形である。円形のSH07竪穴住居跡は、弥生時代のものと考えられるが、遺物が残っておらずはつきりしない。内部施設を持つ住居跡は、ベッド状遺構があるもの7軒、壁溝をめぐらすもの11軒、カマドが付くもの2軒である。各住居跡については、Tab. 1に示すとおりである。

Tab. 1 松の森遺跡竪穴住居跡一覧表

住居番号	地区	標図番号	平面形態	規模		柱穴	屋内施設	遺構状態	遺物出土状況 その他の
				長軸	短軸(m)				
SH01	1	Fig. 3	方形	4+a	4.2	4	壁溝が、東側と南側にある。	西壁は削平を受け、中央部は現代の溝に切られる。	床面より小型丸底盤出土。
SH02	1	Fig. 3	方形	3.5			壁溝がめぐる。	西側は調査区域外の為未調査。SD01に切られる。	
SH03	1	Fig. 3	方形	52+a	52+a	4		北側は削平を受け、壁が残存しない。	ピット中より壺出土。
SH04	1	Fig. 4	楕円形	6.6	4.85	32.01	壁溝がめぐる。	北側は調査区域外の為未調査。	床面より壺等出土。
SH05	1	Fig. 3	方形	3.96			壁溝が北壁沿いに一部残る。	住居の半分以上がSD07に切られる。	
SH06	1	Fig. 4	長方形	5	4.15	20.75	北側にカマドが付き、支柱が残っている。	SD06に切られる。	床面・カマド付近より壺・鉢等が出土。
SH07	1	Fig. 5	円形	5.16		20.90		西側は調査区域外の為未調査。	
SH08	2	Fig. 5	長方形	4.63	3.5	16.21		南側の一部をSD13に切られる。	床面より壺・鉢等が一括出土。
SH09	2	Fig. 5	長方形	6.3	4.65	29.3	壁溝がめぐる。	削平が著しく、壁はわずかに残るのみである。SH10と切り合うが新旧不明。	床面より壺出土。
SH10	2	Fig. 5	長方形		2.7		壁溝がめぐる。	西側をSD10に切られる。	
SH11	2		長方形	5.4	4	21.6		SH12と切り合う。削平が著しく壁はほとんど残っていない。平面がかろうじてわかるのみである。	床面より壺出土。
SH12	2		長方形	4.7	3.5	16.45		SH11と切り合うが新旧不明。	
SH13	3A							東側は調査区域外の為未調査。西側は削平を受けている。SD14に切られる。	理土中より鉢等出土。
SH14	3A	Fig. 6	方形				東側に一部壁溝が残る。	西側は調査区域外の為未調査。南側は削平を受け壁が残存しない。	中央に焼土残る。
SH15	3A	Fig. 6	方形				北東壁に沿ってベッド状遺構がある。	北側をSK02に切られる。北および西側は削平を受け壁が残存しない。	床面・柱穴より壺・甕等出土。

住居 番号	地区	排図 番号	平面 形態	規 模		柱 穴	屋 内 施 設	遺 構 状 態	遺物出土状況 そ の 他	
				長軸: 短軸[m]	面積[m <sup>2</sup> ]					
SH16	3B	Fig. 7	方 形					西側は調査区域外の為未調査。北側は削平を受け壁が残存しない。		
SH17	3B	Fig. 6	方 形	5.9			北壁沿いにベッド状遺構がある。	SH18, 19, 20と切り合う。西側は削平を受ける。		
SH18	3B	Fig. 6	方 形					SH17, 19, 20と切り合う。		
SH19	3B	Fig. 6	方 形					SH17, 18, 20と切り合う。		
SH20	3B	Fig. 6	方 形					SH17, 18, 19と切り合う。		
SH21	3C	Fig. 7	方 形				壁溝がめぐる。	北側は調査区域外の為未調査。東側に埴土塊る。		
SH22	3C		方 形					削平を受け、南側隣のみ残る。		
SH23	3C	Fig. 7	方 形	4.77			北および南壁に沿ってベッド状遺構がある。	西側は削平を受け、壁は残っていない。SH22と切り合う。床面に部分的に粘土塊る。	床面および埋土より多量の甕・壺・高杯等出土。	
SH24	3C	Fig. 8	方 形	5.0		4	壁溝がめぐる。	西側は削平を受け、壁は残っていない。SH25と切り合う。SH25より新しい。	床面より土器類の片壺・甕・壺・須恵器の杯・魁・碟等が出土。埴土が残る。	
SH25	3C		方 形					北側は調査区域外の為未調査。南側はSH24と切り合い、東壁の一部のみ残る。	床面より甕・器台等出土。	
SH26	3D	Fig. 8	方 形					東側は調査区域外の為未調査。	床面より甕等出土。	
SH27	3D	Fig. 7	方 形				北および南壁に沿ってベッド状遺構がある。	西側は調査区域外の為未調査。	床面より甕・器台等出土。	
SH28	4	Fig. 8	方 形	3.3				S H29, 30と切り合う。		
SH29	4	Fig. 8	方 形	4.08	3.35	13.7	4	S H28, 30と切り合う。SH28, 30より新しい。	床面より土器類杯出土。北側に埴土が残る。	
SH30	4	Fig. 8	方 形					S H28, 29と切り合い、一部が残存。		
SH31	4	Fig. 9	方 形	5.82	5.34	31.08	4	壁溝がめぐる。	西および南側は削平を受け壁は残っていない。SH32と切り合う。	床面より甕・壺等出土。
SH32	4	Fig. 9	方 形	3.94	3.55	13.99	4	東壁沿いを除いて壁溝がめぐる。	SH31と切り合う。	中央に埴土塊る。
SH33	4	Fig. 10	方 形	5.05				S D22溝に切られ土ほど残存。		
SH34	4		方 形					東側は調査区域外の為、一部残るのみ。		
SH35	4		方 形					西側は調査区域外の為未調査。SH36と切り合う。		
SH36	4	Fig. 9	方 形			4	北側にカマドかづく。	S H35, 37, 38と切り合う。	床面より土器類等出土。	
SH37	4	Fig. 9	方 形	4.45		4		S H36, 38と切り合う。西側は調査区域外の為未調査。	床面より土器類等出土。	
SH38	4		方 形				北壁に沿いベッド状遺構がある。	S H36, 37と切り合う。西側は削平を受け壁は残っていない。	床面より甕等出土。	
SH39	4	Fig. 10	方 形	3.59	3.49	12.5	4	S H40と切り合う。SH40より新しい。	床面より土器類等出土。	
SH40	4		方 形					S H39と切り合う。西側は削平を受け壁は残っていない。	床面より土器類等出土。	
SH41	4	Fig. 10	方 形				東壁に沿いベッド状遺構がある。	西側は調査区域外の為未調査。	床面より甕・壺等出土。	

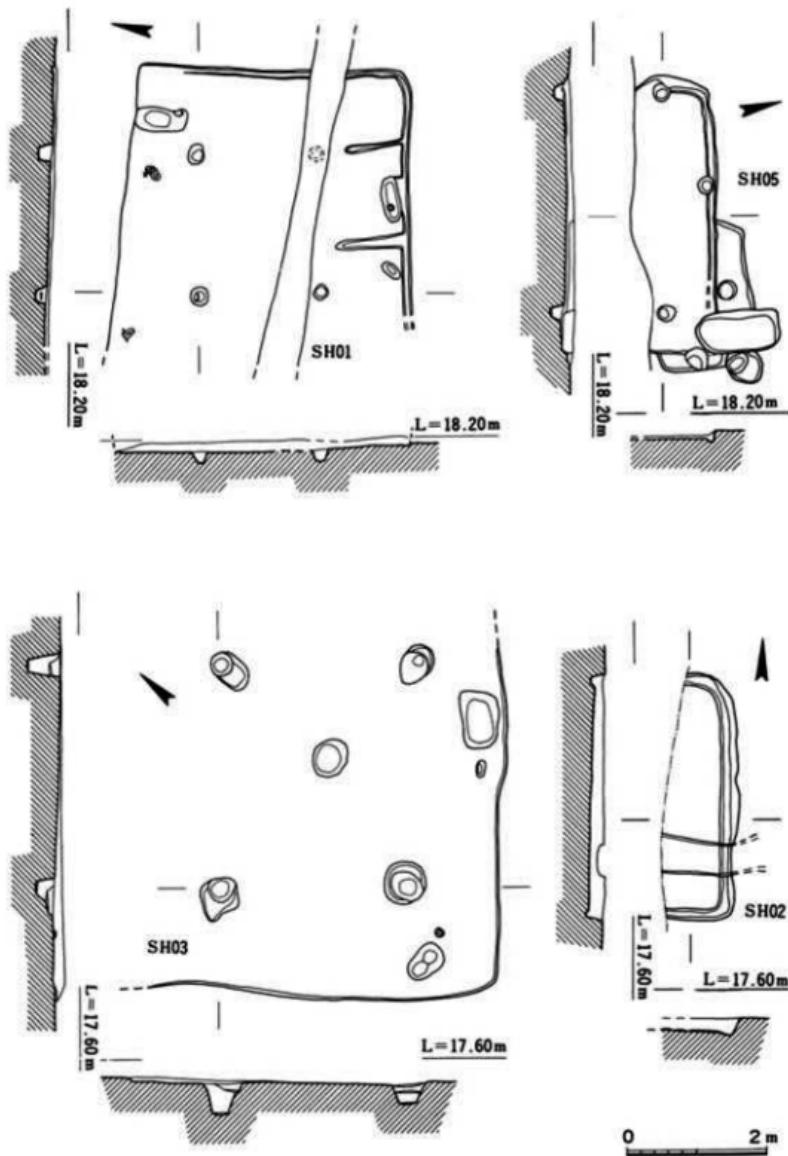


Fig. 3 SH01~03, 05住居跡実測図

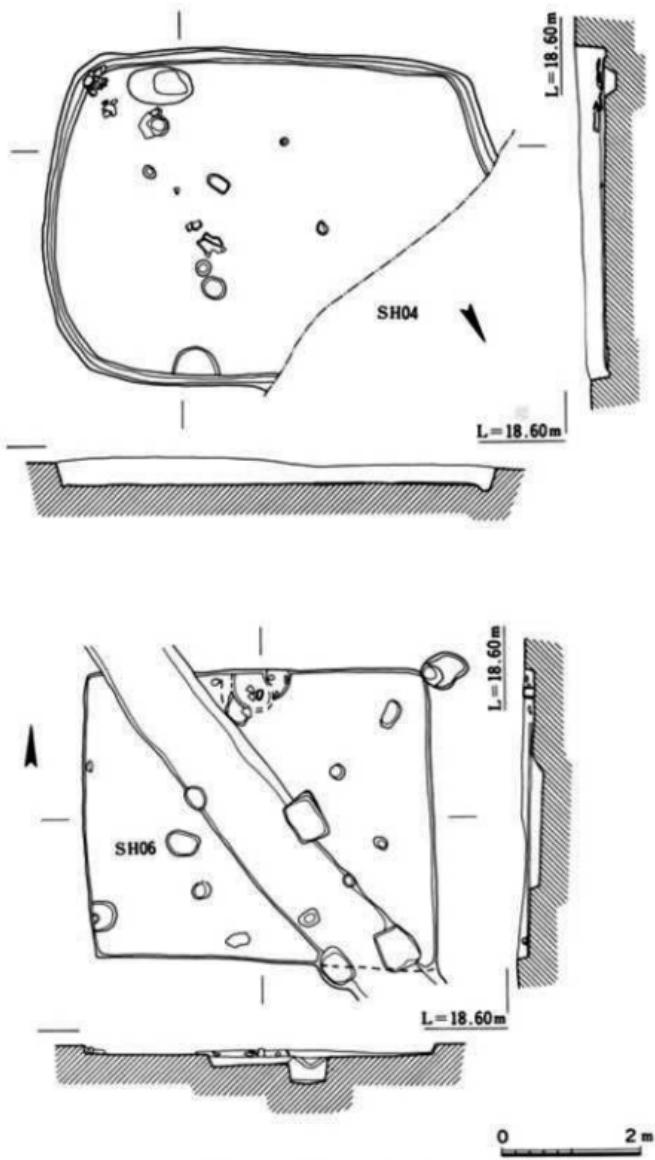
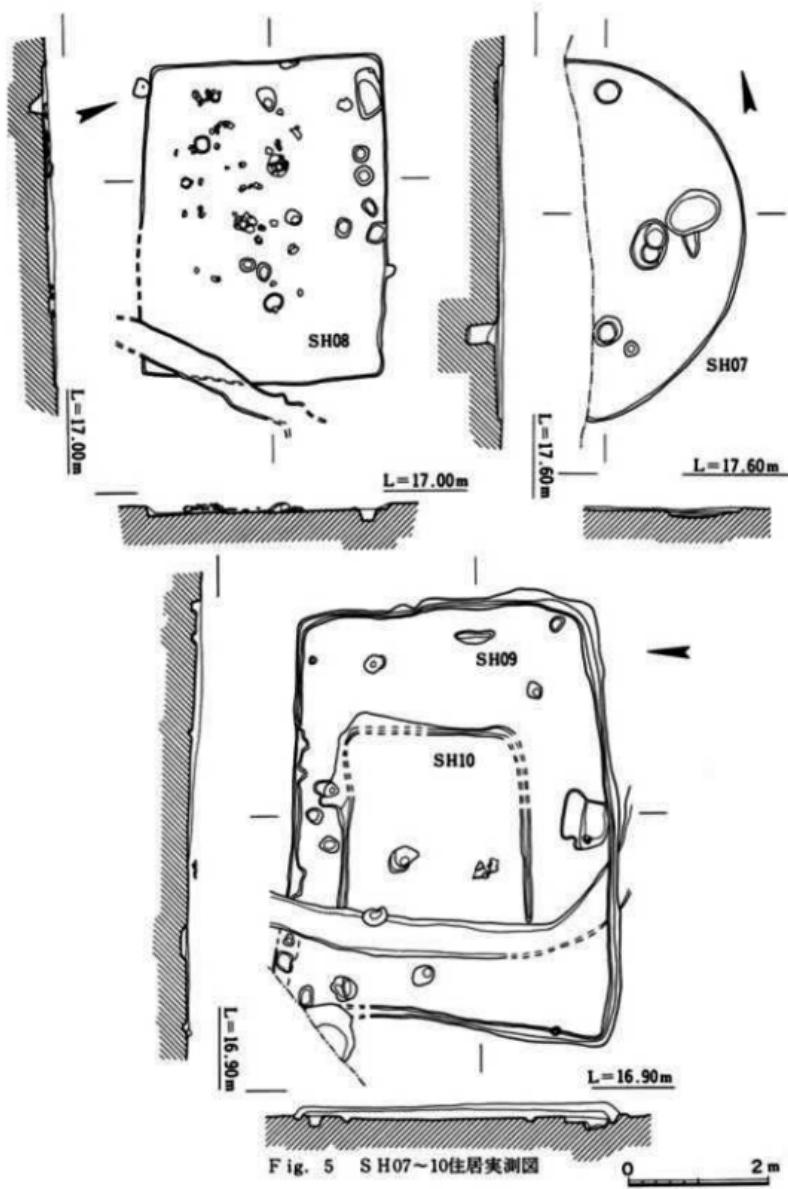


Fig. 4 SH04, 06住居跡実測図



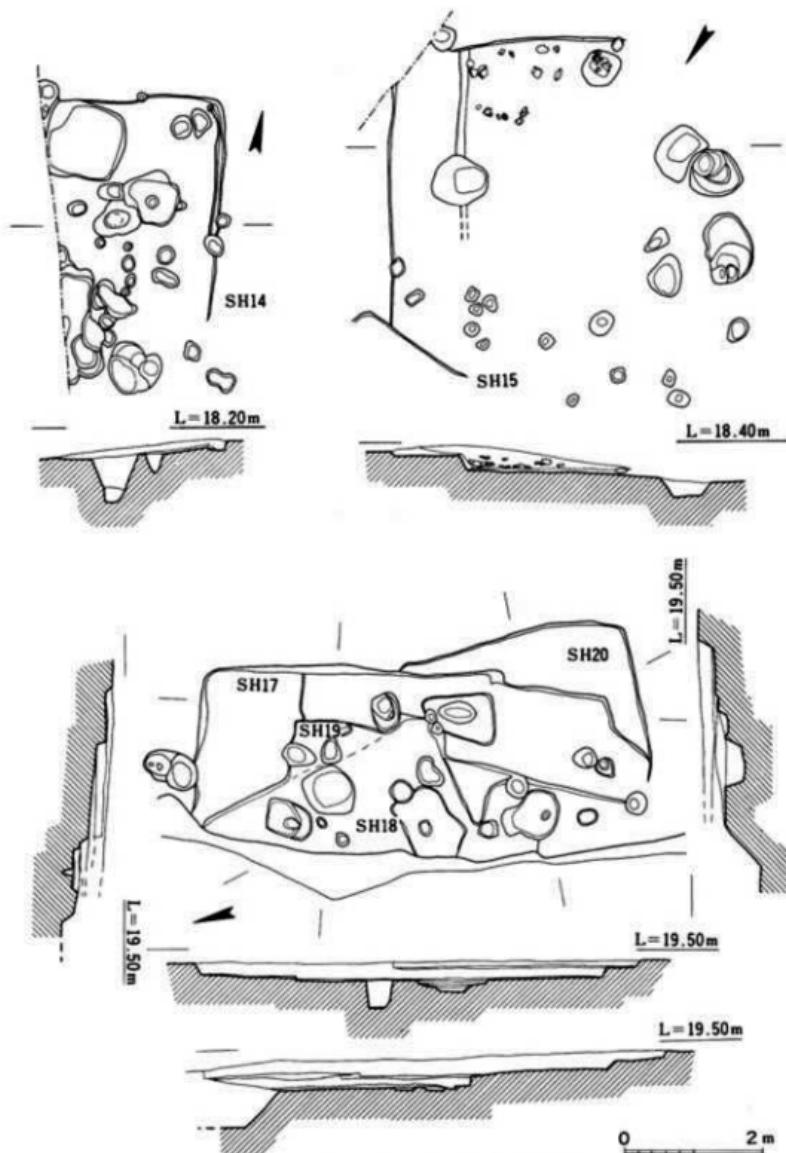


Fig. 6 S H 14, 15, 17~20住居跡実測図

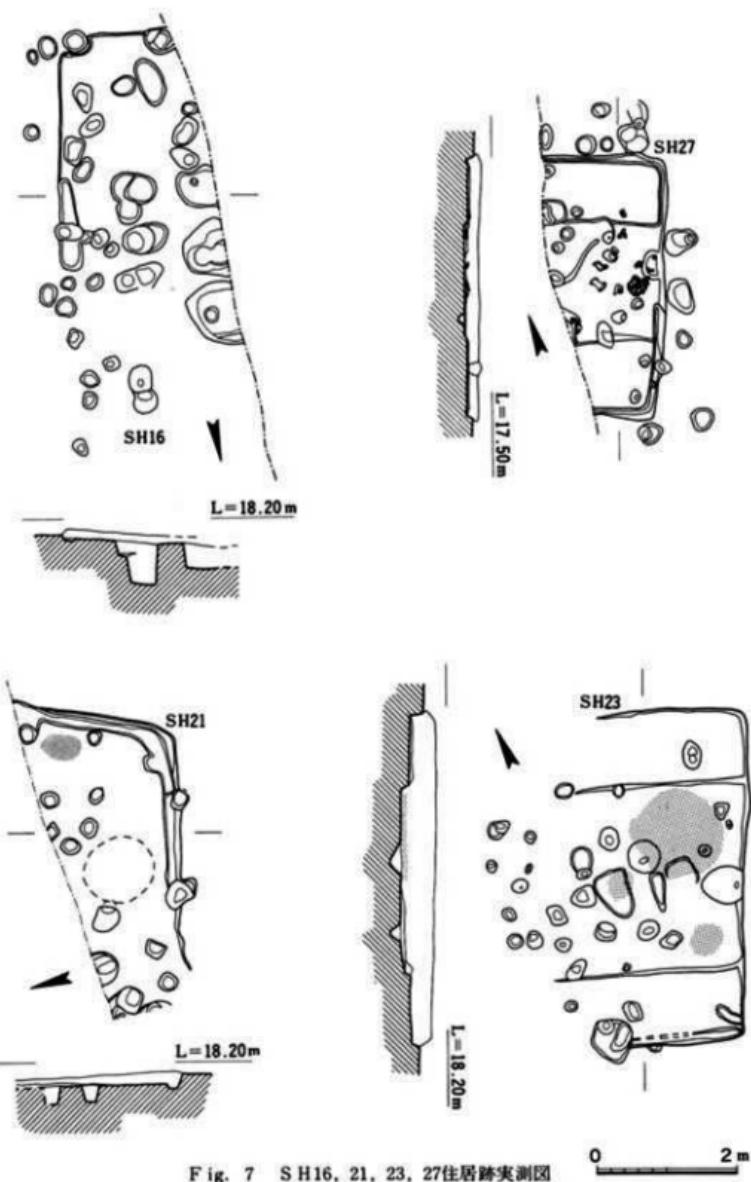


Fig. 7 S H16, 21, 23, 27住居跡実測図

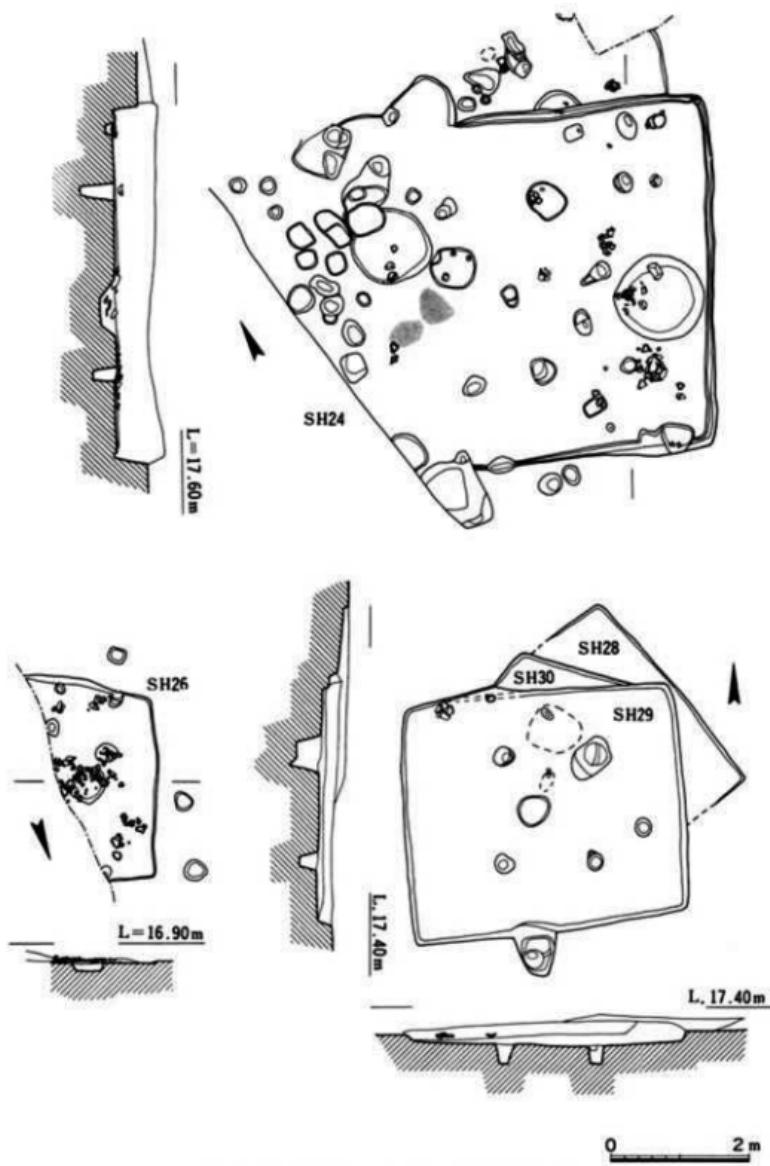


Fig. 8 SH24, 26, 28-30住居跡実測図

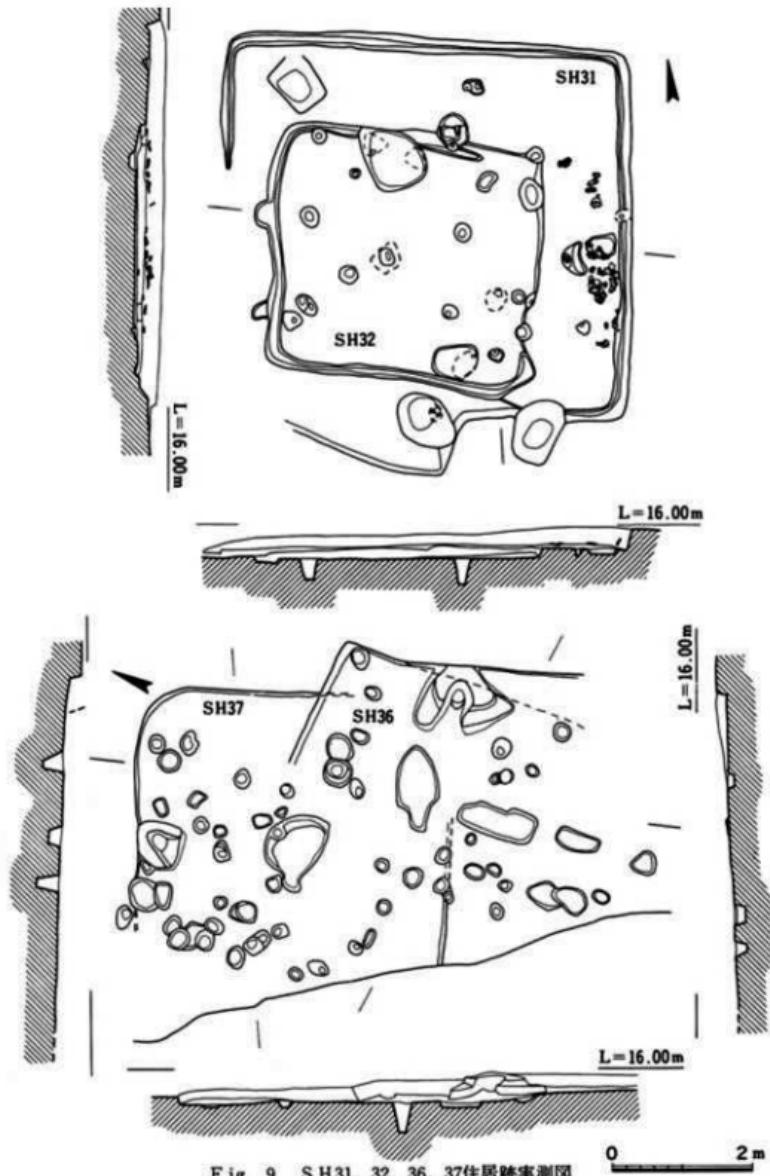


Fig. 9 SH31, 32, 36, 37住居跡実測図

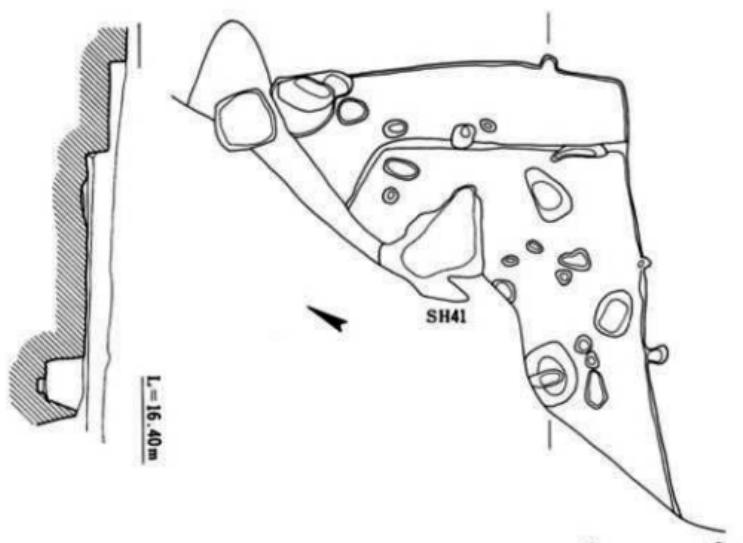
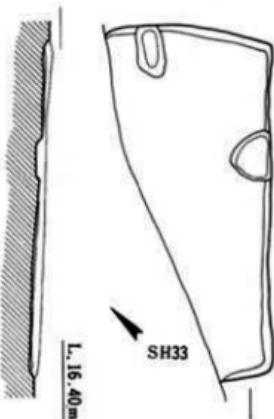
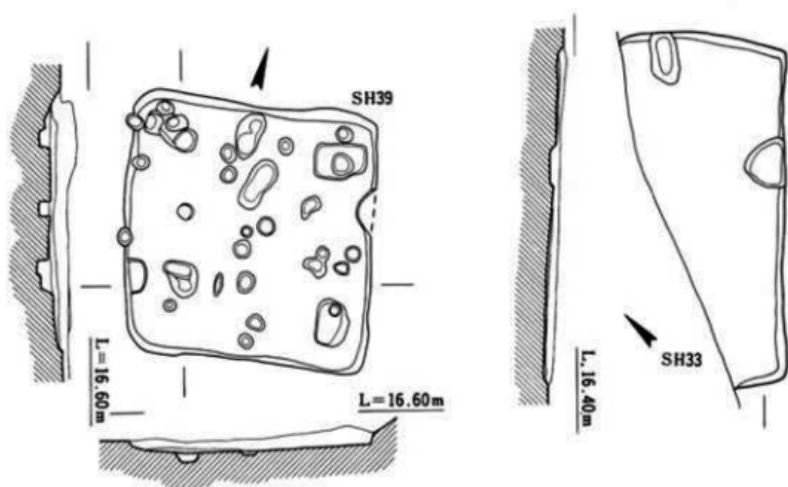


Fig. 10 S H33, 39, 41住居跡実測図

0 2 m

### 3. 挖立柱建物跡

掘立柱建物跡は25棟復元できた。1区に9棟、3区に7棟、4区に9棟あり、1区のSB01、02掘立柱建物跡、3区のSB16掘立柱建物跡は $2 \times 2$ 間の純柱の建物である。また3区のSB10、13掘立柱建物跡、4区のSB17~23掘立柱建物跡の柱穴の掘り方は、他の建物跡に比べ一辺が約0.8m以上の大きなものである。これらの柱穴の大きなものは、3区以南にあり、特に4区が多い。4区では北側から中央部に集中しており、検出状況からみてこれらの建物群は、調査区西側に広がっているものと考えられる。

今回の調査では25棟復元できたが、調査区域が部分的でもあり、調査区域外に伸びる建物も数多い。

Tab. 2 松の森遺跡掘立柱建物跡一覧表

遺構番号	地 区	長 軸 方 位	規 模	柱 間 (m)		総面積 (m <sup>2</sup> )	備 考
			桁行×梁行(間)	桁 行	梁 行		
SB 01	1	N-27°-W	2×2	3.45	3.75	12.9	純 柱
02	"	N-56°-E	2×2	4.15	4.20	17.4	純 柱
03	"	N-12°-W	1×1	1.35	2.00	2.7	
04	"	N-89°-W	1×1	3.25	2.60	8.5	
05	"	N-23°-W	1×1	2.15	2.60	5.6	
06	"	N-86°-E	1×1	3.25	2.75	8.9	
07	"	N-89°-W	2×1	2.90	1.45	4.2	
08	"	N-85°-W	1×1	2.15	2.25	4.8	
09	"	N-48°-W	2×2	3.50	4.00	14.0	
10	3 A	N- 5°-W	2×1	2.75	4.25	11.7	
11	"	N-41°-W	2×1	2.05	6.00	12.3	
12	"	N-49°-W	2×1	2.55	4.30	10.9	
13	"	N-67°-W	2×1	2.05	4.05	8.3	
14	3 B	N-85°-E	2×1	2.85	2.90	8.3	
15	3 C	N-54°-W	2×2	4.50	4.25	19.1	
16	"	N-50°-E	2×2	4.70	3.40	16.0	純 柱
17	4	N-31°-E	1×1	2.80	2.80	7.8	
18	"	N-38°-E	1×1	2.75	2.85	7.8	
19	"	N-55°-E	1×1	2.45	2.50	6.1	
20	"	N-17°-E	2×1	1.90	4.20	8.0	
21	"	N- 8°-W	1×1	2.00	3.00	6.0	
22	"	N- 7°-E	1×1	2.60	2.75	7.2	
23	"	N-10°-E	1×1	1.65	2.20	3.6	
24	"	N- 3°-W	3×3	5.80	6.20	35.9	
25	"	N-47°-W	2×2	4.45	4.95	22.0	

#### 4. 溝 跡

溝は24条検出しているが、そのほとんどが近世以降の新しいものである。そのなかで3B区のSD19溝は古墳時代前期のものである。N-5°-Eの方向に伸び、北側は西にほぼ直角に曲

がり、約3.5m行って止まっている。南側は調査区域外へ伸びており全容は掴めない。溝の巾は約2.8m、深さは約1.8mで、断面はU字形に近い。土層は8層からなり、土器は第2~6層に集中している。土器の出土量は全遺構中最多く、二重口縁壺、甕、鉢等が出土している。この溝の性格は不明だが、一括遺物は注目される。

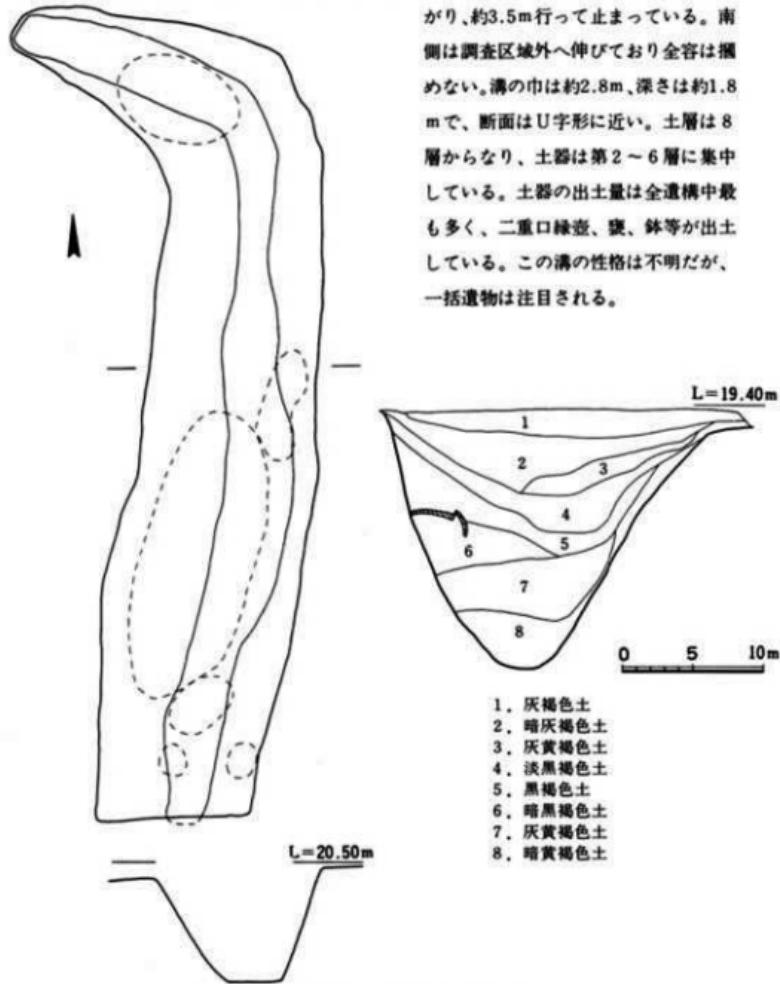


Fig. 11 SD19溝実測図および土層断面図

## IV. 遺 物

今回の調査で出土した遺物には、弥生土器、土師器、須恵器、土製品、石鉄、スクレイパー、砥石等の他、石製の紡錘車がある。これらの遺物については、Tab. 3 土器観察表、Tab. 5 石器観察表およびFig. 12~22で紹介する。

### 1. 土 器

土器観察表については下記のとおりである。

- ① 土器番号は挿図番号、図版番号に一致する。
- ② 種類の欄の、須は須恵器を表わす。
- ③ 法量の欄の(復)は復元値、(推)は推定値、(残)は残存器高を、(幅)は幅径を表わす。
- ④ 法量の単位はcmである。
- ⑤ 備考欄の数字は遺物登録番号である。

Tab. 3 出土土器観察表

遺構番号 挿図番号	土器番号 器種 種類	口 径 器 高 径	形 態 の 特 徴	整 形	色 調・胎 土	備 考
SH01 Fig.12	1 壺	10.8 6.7 9.0	体部は偏平な球形で、口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコナデ、底部外縁へラ状工具によるナデ。底部内面ナデ。	内面橙褐色 外面暗褐色 砂粒を含む	81003525
SH03	2 壺	11.2 13.8 13.6	体部は球状、口縁部は直立気味に立ち上がり、外反する。口縁端部は薄くなる。	体部内面ヘラケズリ、他は風化の為不明瞭だが、口縁部ヨコナデ、体部はナデか。	内面赤褐色 外面褐色 砂粒を多く含む	81003527
	3 壺	10.6 12.4 11.4	体部は丸味を帯び胴長で、口縁部はゆるやかに外反する。口縁端部は角ばる。	口縁部ヨコナデ、体部内外面ナデ、底部は指輪压痕の後ナデ。	内面黄褐色 外表面褐色 砂粒を多く含む	81003526
SH04	4 高 杯	— 筒 6.9 —	脚部の柱状部のみ残る。	風化の為不明瞭。	暗褐色	81004378
	5 体	13.0 4.3	体部は浅い皿状である。	口縁部はハケメがわずかに残る。底部内面ナデ、外表面ケズリ。	橙褐色	81004377
	6 壺	— 筒 8.8 9.9	口縁部を欠損する。体部は球形である。	風化の為不明瞭。	赤褐色 砂粒を多く含む	81003528
	7 白付 壺	筒12.6 筒 9.8 筒 9.8	縁部を欠損する。体部は偏平で、口縁部は直線的に開く。口縁端部は薄く丸くなる。	風化の為不明瞭。	赤褐色 細砂粒を含む	81003529
SH04	8 壺	筒11.4 筒12.4 筒19.0	体部は球形である。口縁部はやや開き気味に立ち上がる。	口縁部ヨコナデ、体部外縁ハケメ。	暗褐色 砂粒を含む	81003530
SH06	9 壺	筒 6.8 10.2	平底にやや内湾しながら開く体部を持つ。	風化の為不明瞭。	灰褐色 粗い砂粒を含む	81003532

遺構番号 神社番号	土器番号 器種類	口径 器高 幅	形態の特徴	整 形	色調・粘土	備考
SH06 Fig. 12	10 鉢	13.0 6.2	半球状の体部である。口縁部は角ばる。	風化の為不明瞭。	褐色 砂粒を含む	81003531
	16 盃	22.7 例32.5 例63.9	二重口縁の盃である。頂部は「く」の字状になり、口縁部内側する。底部はなだらかに落ち、体部は丸味をもつ。	体部外側ハケメが一部に残るが不明瞭、内面へラケズリ。口頂部は風化の為不明瞭。	明褐色 やや粗い砂粒を含む	81004375
SH06	11 鉢	16.4 7.9	体部は半球状に近く、口縁部は「く」の字状に開き。口縁部はわずかに内湾する。	底部は焼成後の穿孔あり。体部内面には指頭痕がわずかに残るが、他は風化の為不明瞭。	橙褐色 砂粒を多く含む	81003533
	12 盃	例13.2 10.2 例11.2	口縁部は「く」の字状であり、口縁部はやや内湾する。端部は薄い。体部は球状である。	口縁部、体部ともナデ。	赤褐色 砂粒を多く含む	81004799
	13 盃	例15.0 例5.3	口縁部は「く」の字状であり、口縁部はわずかに内湾する。	体部内面はハケメ、他は不明瞭。	淡褐色 砂粒を多く含む	81004800
	14 盃	例13.8 例10.9 例13.9	口縁部は「く」の字状で、口縁部は外反する。体部は球形である。	体部内面ヨコ方向のヘラケズリ、外面ハケメ、他は不明瞭。	暗褐色 砂粒を多く含む	81003293
	15 盃	6.0 21.4 20.8	口縁部は「く」の字状で、口縁部は内湾気味にわずかに開く。体部は球形で最大径は胴部中位にある。	体部内面ヨコ方向のヘラケズリ、他は不明瞭。	内面橙褐色 外面褐色 粗い砂粒を含む	81003534
SH09 Fig. 13	17 盃	12.0 6.8	体部は偏平な球状で、口縁部は直線的に開き、端部はやや内湾する。	口縁部内面ヨコナデ、外面へラミガキ、体部内面はヘラ状工具によるナデ。	内面褐色 外面橙褐色 砂粒を多く含む	81003535
	18 鉢	12.0 10.3	体部は磁弾形である。口縁部は丸味をもつ。	口縁部および体部外側はハケメがわずかに残る。体部内面ナデ。底部に焼成前の穿孔がある。	橙褐色 黒斑あり 砂粒を含む	81003536
SH11	19 盃	例14.0 例21.6 例20.4	口縁部は「く」の字状で口縁部は短い。最大径は胴部上位にあり、器壁は厚い。	口縁部ヨコナデ、体部内面へラケズリ、下位はヘラケズリ後ナデ。体部外側ハケメ、下位は指頭圧痕後ナデ。	暗赤褐色 粗い砂粒を数多く含む	81003295
	20 盃	14.0 33.2 26.1	口縁部は「く」の字状で、口縁部はやや外反しながら開く。体部は卵形で最大径は胴部中位にある。	口縁部内面および端部はヨコナデ、外側外側ハケメ、部分的にハケメ後ナデ。体部内面ハケメ、外側タキ後ハケメ。	暗褐色 黒斑あり 砂粒を少量含む	81003584
SH13	21 鉢	例24.7 例8.7	丸味をもつ体部に、外反しながらゆるやかに開く口縁部がつく。	外側はハケメがわずかに残るが不明瞭。	暗褐色 砂粒をやや含む	81004354
SH15	22 盃	例13.0 例12.0 例24.2	体部は球状で、短くやや内傾する口縁部がつく。口縁部は丸い。	体部外側ハケメ、他は部分的にハケメが残る。	褐色 砂粒を含む	81004341
	23 盃	例14.8 例7.0 —	「く」の字状の口縁部で、端部はやや肥厚する。	体部内外面ハケメがわずかに残るが不明瞭。	内面灰褐色 外面暗灰色 砂粒をわずかに含む	81004342
	24 盃	例22.0 例10.4 —	「く」の字状の口縁部で、口縁部はやや薄くなり、端部は丸い。	体部内外面ハケメがわずかに残るが不明瞭。	内面橙褐色 外側暗褐色 砂粒を含む	81004343
	25 盃	例24.0 例13.8	「く」の字状の口縁部である。口縁部は肥厚し、やや角ばる。	体部はハケメか。口縁部不明瞭。	褐色 砂粒を多く含む	81004339
	26 盃	— 例 6.7	底部のみ残る。焼成前の穿孔あり。	内面はハケメ、外側は不明瞭。	褐色 砂粒を含む	81004340

遺構番号 地図番号	土器番号 器種類	口径 高径	形態の特徴	整 形	色調・胎土	備考
SH23 Fig.14	27 壺	Φ19.8 Φ33.0 Φ26.2	口縁部はゆるやかに外反し、腹部は肥厚する。口縁部には三角凸部をつまみ出している。胴部上位に最大径があり、底部は平底である。	風化の為不明瞭。	褐色 砂粒を多量に含む	81004325
	28 壺	Φ13.0 15.2 Φ16.8	「く」の字状の口縁部で、口縁端部はわずかに内湾し丸い。体部は球形で、最大径は胴部中位にある。	体部内面へラケヅリ後ナデ、その他は不明瞭。	内面暗褐色 外面暗褐色 砂粒を含む	81003541
	29 壺	Φ13.6 11.2 Φ12.9	「く」の字状の口縁部である。最大径は口縁部にあり、体部は丸味をもつ。	体部内面へラケヅリ後ナデ、その他は不明瞭。	褐色 黒斑あり 砂粒を含む	81003539
	30 壺	Φ25.2 Φ 7.4	口縁部のみ残る。頂部は直立気味に立ち上がり、口縁部は大きく外反する。	外面ハケ目か。内面不明瞭。	内面暗灰色、褐色 外面褐色 砂粒を多く含む	81004321
	31 壺	Φ24.8 Φ 8.1	「く」の字状の口縁部である。口縁端部は肥厚し、角ばる。	風化の為不明瞭。	内面暗褐色 外面褐色 砂粒を多く含む	81004322
	32 壺	Φ24.8 Φ10.9	「く」の字状の口縁部である。口縁端部はわずかに内湾する。	風化の為不明瞭。	内面褐色 外面暗褐色 砂粒を含む	81004360
	33 壺	Φ30.8 Φ23.2	長胴の壺である。胴部最大径は中位にあり、底部は平底である。	体部外面上位ハケメ、内面上位ハケメがわずかに残る。体部下半は不明瞭。	暗褐色 黒斑あり 砂粒を含む	81004384
	34 高杯	33.4 Φ20.2	脚部を欠損する。直線的に聞く体部に口縁部はやや内湾しながら伸び、腹部付近は外反する。口縁部と体部の接は内面に残り、外面はない。	体部にはハケメが部分的に残る。	明度褐色 砂粒を含む	81004373
	35 鉢	Φ16.8 Φ 5.6	「く」の字状の口縁部である。口縁部は外反する。	風化の為不明瞭。	褐色 黒斑あり 砂粒を多く含む	81004324
	36 鉢	Φ33.0 Φ 9.2	半球状の浅い体部で、口縁端部は角ばる。	風化の為不明瞭。	褐色 砂粒を多く含む	81004327
	37 鉢	Φ16.4 7.6	体部は半球形で、口縁部は近く聞く。	体部外面上半はヘラケヅリ後ナデ、他は風化の為不明瞭。	淡黄褐色 砂粒を多く含む	81004898
SH24 Fig.15	38 杯	14.2 5.2	体部は半球形で、口縁端部は外反している。	外面ヨコナデ、ナデ、内面不明瞭。	橙褐色 砂粒を含む	81003547 床面直上
	39 杯	15.2 6.1	体部は半球形である。口縁端部は外反し、薄く丸い。	外面にハケメがわずかに残るが不明瞭。	橙褐色 砂粒をわずかに含む	81003553 床面直上
	40 杯	15.6 6.0	体部は半球形である。口縁端部をわずかに引き出し外反させている。	風化の為不明瞭。	橙褐色 砂粒をわずかに含む	81003546 床面直上
	41 壺	Φ37.6 Φ13.6	口縁部のみ残る。頂部は短く内傾し、強く外反している。口縁部は内傾し、端部は直口する。	風化の為不明瞭。	橙褐色 砂粒を多く含む	81004374
	42 壺	— Φ 7.5 Φ 9.5	体部のみ残る。球形の体部である。	内面下半に指捺圧痕が残るが、他は不明瞭。	褐色 砂粒を含む	81003544
	43 壺	Φ12.6 Φ 6.6	内傾する体部に、口縁端部を高く外反させている。	外面ハケメがわずかに残るが不明瞭。	暗褐色 砂粒を含む	81004330

遺構番号 地図番号	土器番号 器種類	口径 高さ 直径 厚さ	形態の特徴	整 形	色調・粒土	備考
SH24 Fig.15	44 壺	ø17.8 ø9.8	「く」の字状の口頭部である。口縁端部は薄く丸い。	内面粘土帶残るが、調整不明瞭。	暗褐色 砂粒を含む	81004329
	45 壺	ø14.6 ø5.2	「く」の字状の口頭部である。口縁端部はわずかに外反する。	内面ハケメ。外面ハケメがわずかに残る。	暗褐色 砂粒を含む	81004332
	46 壺	ø17.6 ø7.7	「く」の字状の口頭部である。口縁端部は角ばる。	内外面ハケメ。	暗褐色 砂粒を含む	81004336 ピット内出土
	47 高杯	ø13.2 ø9.7	脚部である。柱状部は短く開き、唇部は外反し、底く安定している。	外面ハケメがわずかに残る。脚内面ケズリ。	内面黒褐色 外表面暗褐色 砂粒を含む	81003531 床面上
	48 支脚	6.0 13.2	柱状のもので、断面は丸い。	ナデ。	暗褐色 細砂粒を含む	81003567
	49 杯蓋 埴	ø11.6 ø3.3	天井部は底く丸味をもつ。口縁部は下外方に開き、端部は丸く、わずかに外反する。	天井部外面回転ヘラケズリ、内面ナデ。他は回転ナデ。ロクロ方向右回り。	内面灰褐色 外表面灰色 砂粒を含む	81003593 天井部へ 記号あり
	50 杯身 埴	10.7 ø4.2	立ち上がりはやや内傾し、端部は薄く丸い。受部は上外方に伸び端部は丸い。底部はやや丸味をもつ。	底部外面回転ヘラケズリ、内面ナデ。他は回転ナデ。	灰色 細砂粒を含む	81003589
	51 杯身 埴	ø10.6 4.6	立ち上がりはわずかに外反しながら内傾し、端部は薄い。受部は外方へわずかに伸び、底部は底平で深い。	底部外面回転ヘラケズリ、他は回転ナデ。ロクロ方向左回り。	灰色 細砂粒を含む	81003592
	52 杯身 埴	ø12.0 5.1	立ち上がりは内傾する。受部は外上方へ伸び、端部は丸い。底部は丸味をもつ。	底部外面回転ヘラケズリ、内面ナデ。他は回転ナデ。ロクロ方向右回り。	灰色 細砂粒を含む	81003591
	53 杯身 埴	12.2 4.8	立ち上がりは外反しながら内傾し、薄い。受部は外上方へ伸び、底部は上げ氣味の凹みがあるが平底である。	底部外面回転ヘラケズリ、内面ナデ。同心円文の压痕が残る。他は回転ナデ。ロクロ方向右回り。	灰色 細砂粒を含む	81003590
	54 杯身 埴	11.8 4.9	立ち上がりは内傾し、端部は薄く丸い。受部は外上方へ伸び、端部は薄い。底部は底平で深い。	底部外面回転ヘラケズリ、内面ナデ。他は回転ナデ。ロクロ方向左回り。	灰色 砂粒を含む	81003588 ヘラ記号 あり
	55 魁 埴	ø12.8 ø14 10.7	球形の体部に外反しながら開口部につき、口縁端部は薄い。	口頭部ヨコナデ、肩部外面ヨコナデ、内面ナデ。胴部外面ヘラケズリ後ナデ。内面ヘラケズリ、口縁部1ヶ所、腹部に2ヶ所の輪筋波状文。胴部に刺突判定点を施す。	灰色 細砂粒を含む	81003594 部分的に自然かかる。
3区包含層 Fig.16	56 甕 埴	— — —		内面同心円文タタキ、外面平行文タタキ。	灰色 細砂粒を含む	81004483
	57 壺	ø15.2 ø8.8 ø16.3	「く」の字状の口頭部である。口縁部は外反し、端部は角ばる。	体部内面ナデ。外面ハケメ。口縁部はヨコナデ。	暗赤褐色 砂粒をやや含む	81004796
SH25	58 器台	7.2 16.6 ø16.4	くびれは上位にあり、安定している。口縁端部、唇端部は角ばる。	外面ハケメか。内面シボリ痕残る。	褐色 粗い砂粒を多く含む	81003558
SH26	59 甕	ø18.8 ø5.7	「く」の字状の口頭部である。	外面ハケメがかすかに残る。内面不明瞭。	暗褐色 砂粒を多く含む	81004355 床面上出土
	60 甕	ø31.2 ø19.8	「く」の字状の口頭部で、体部はあまり膨らまない。口縁端部は角ばる。口縁部に三角凸部を貼り付け、布目模様のある羽目目を施す。	不明瞭だが外面タタキ後ハケメ。	褐色 砂粒を含む	81004353 床面上出土

遺構番号 神社番号	土器番号 器種類	口径 器高径	形態の特徴	整 形	色調・粒土	備考
SH26 Fig.16	61 甕	Φ38.4 H16.3	「く」の字状の口頭部で、口縁端部は角ばる。口頭部に三角凸唇を貼り付け、布目底のある割み目を施す。	不明瞭だが外面タタキ後ハケメ。	褐色 砂粒を多く含む	81004318 床面直上出土
SH27	62 甕	Φ29.8 H8.0	「く」の字状の口頭部である。口縁端部は角ばるが、内側をわざかにつまみ上げる。	風化の為調整不明瞭。	褐色 砂粒を含む	81004359 床面直上出土
	63 壺	Φ14.2 H6.7	「く」の字状の口頭部で、端部は角ばる。	外面ハケメか。	橙褐色 砂粒を含む	81004319 ピット内出土
	64 甕	14.8 19.8 15.6	「く」の字状の口頭部で、端部はやや内湾し丸い。長柄の体部で最大径は中位にあり、底盤は平底である。	口縁部外面ヨコナデ、体部外面下半ナデ、他はハケメである。	褐色 黒斑あり 砂粒を含む	81003537 床面直上出土
	65 器 口	12.4 17.0 Φ15.8	くびれは上位にあり、端部はそれぞれ丸味をもつ。	外面ハケメ、内面ハケメとシボリ底、端部はヨコナデ。	褐色 砂粒を含む	81003538 床面直上出土
SH29 Fig.17	66 杯	Φ13.0 H5.6	体部は半球形である。口縁端部は湾い。	口縁部ヨコナデ、体部内面ナデ、外顔面ヘラケズリ。	暗褐色 細砂粒をわずかに含む	81003569 床面直上出土
SH31	67 杯 盆 项	Φ13.0 H4.9	天井部は丸味をもち、口縁部は下外方へ開く。	天井部外面回転ヘラケズリ、内面ナデ、他は回転ヨコナデ。	灰色 砂粒を含む	81004493 床面直上出土
	68 高 杯	Φ17.8 H4.8	杯部のみ残る。底部と体部の境に接をもち、体部は内湾しながら開く。	底部外面ハケメ、他はナデ。	赤褐色 細砂粒を含む	81003691 床面直上出土
	69 鉢	19.6 9.2	平底の底部に、内湾しながら開く体部をもち、口縁部はほぼ直口である。口縁端部は湾く丸い。	風化の為不明瞭。	橙褐色 砂粒をわざかに含む	81003570 床面直上出土
	70 甕	Φ18.2 H7.5	「く」の字状の口頭部である。口縁部はやや外反する。口縁端部は磨耗している。	口縁部ヨコナデ、肩部内面ヘラケズリ後ナデ、外面ナデか。	内面暗褐色 外面赤褐色 砂粒を含む	81003690 床面直上出土
	71 鉢	Φ3.6	体部は偏平な球形で、口頭部は「く」の字状である。	風化の為不明瞭。	暗褐色 砂粒を含む	81003571 床面直上出土
SH36	72 甕	Φ24.6 H13.7	「く」の字状の口頭部である。口縁端部は角ばる。最大径は胴部にある。	口頭部外面ヨコナデ、口縁部内面ハケメ、肩部内面ヨコナデ、体部内面ヘラケズリ、外面はハケメ。	内面赤褐色 外面法質褐色 粗い砂粒を多く含む	81003695 床面直上出土
SH37	73 壺	Φ11.6 H8.3 Φ13.4	「く」の字状の口頭部である。口縁部は外反し、端部付近ではわざかに内湾する。	口縁部ヨコナデ、体部内面ヘラケズリ後ナデ、外面ナデ。	内面暗褐色 外面赤褐色 砂粒をやや含む	81003697 床面直上出土
	74 壺	Φ17.2 H8.8	「く」の字状の口頭部である。口縁端部は丸味をもつ。	口縁部ヨコナデ、体部内面ヘラケズリ後ナデ、外面ハケメ。	黄褐色 砂粒を多く含む	81003696 床面直上出土
SH38	75 鉢	Φ9.6 5.4	底部はやや尖がり、体部は内湾しながら開く。端部は磨耗している。	底部指頭圧痕、体部内面ハケメ、外ナデ。	内面暗褐色 外面褐色 砂粒を多く含む	81003698 床面直上出土
SH39	76 鉢	16.6 Φ6.1	偏平な球形の体部に、外反しながら開く短い口縁部がつく。	風化の為不明瞭。	褐色 砂粒を含む	81003574
SH40	77 杯	13.2 5.5	厚味のある底部に、内湾しながら立ち上がる体部がつく。口縁端部は湾い。	口縁部ヨコナデ、底部内面ナデ、外顔面ヘラケズリ。	橙褐色 砂粒を含む	81003575 床面直上出土

遺構番号 神田番号	土器番号 器種類別	口経 器高	形態の特徴	整 形	色調・胎土	備考
S H 4 0 Fig. 17	78 甕	圓26.0 圓17.3	「く」の字状の口頭部である。最大径は胴部にある。	体部外面ハケメ後ナデか。他は風化の為不明瞭。	内面褐色 外面暗褐色 粗い砂粒含む	81004791 床面直上出土
S H 4 1 Fig. 18	79 甕	10.6 5.4	体部は半球状で、底部は丸味をもつ。	風化の為不明瞭。	褐色 砂粒を含む 砂	81003579 床面直上出土
	80 甕	12.0 6.8	底部は丸味をもち、体部は直線的に聞く。	風化の為不明瞭。	褐色 砂粒を含む	81003578 床面直上出土
	81 甕	圓20.2 圓 7.7	口頭部は「く」の字状である。体部に屈曲部をもつ。口縁端部は角ぼる。	体部外面ハケメ、他は風化の為不明瞭。	黄褐色 砂粒を多く含む	81003694 床面直上出土
	82 甕	11.0 16.9 11.3	口頭部は「く」の字状である。体部は長削て最大径は胴部上位にある。底部は厚味がある。	体部内面ハケメ、底部内面ケズリ後ナデ。他は不明瞭。	暗橙褐色 砂粒を多く含む	81003581 床面直上出土
	83 甕	圓23.0	長削で底部は尖り気味である。	体部内面ハケメ、底部内面ケズリ後ハケメ、外側はハケメの痕跡が一部残るが不明瞭。	褐色 砂粒を含む	81003580 床面直上出土
SD19 Fig. 18	84 甕	20.1 22.0 19.5	二重口縁の壺である。体部は球形で、頭部はやや内縮する。口縁部大きく外へ開き、口縁部下部で屈曲部をもつ。口縁端部は外反する。底部穿孔。	口頭部ヨコナデ、体部外面ハケメ、外側下位ハラミガキ、全面丹塗り。	赤褐色 細破粒を含む	81003564
	85 甕	20.4 17.9 16.8	二重口縁の壺である。体部は球形で、頭部は直立する。口縁部は大きく述べ、84に比べ屈曲部が幾らゆるやかである。底部穿孔。	口頭部ヨコナデ。体部外面ハケメ、外側下位ハラミガキ、全面丹塗り。	赤褐色 細破粒を含む	81003565
	86 甕	圓20.8 圓 7.2	二重口縁の壺である。頭部はやや外傾し、口縁部は大きく聞く。	風化の為不明瞭。	暗褐色 砂粒を含む	81004307
	87 甕	圓 4.7	二重口縁の頭部のみ残存する。頭部はやや内縮する。	肩部内面ナデ、外側ハケメがわずかに残る。	内面、暗灰褐色 外側、暗赤褐色	81004310
	88 甕	圓17.2 圓30.8 25.4	「く」の字状の口頭部である。口縁部内側をつまみ上げている。最大径は胴部上位にある。底部はない。	体部外面ハケメ、体部外側下位ナデ。他は不明瞭。	暗褐色 砂粒を多く含む	81003559
	89 甕	18.0 35.9 27.8	「く」の字状の口頭部である。口縁部はやや外反しながら聞く。体部は球型で、最大径は胴部上位にある。底部はない。	体部外面タクタク後ハケメ、内面ヘラケズリ。他は不明瞭。	褐色 砂粒を多く含む	81003561
	90 甕	16.6 圓16.0	「く」の字状の口頭部である。口縁端部はわざかに外反する。	体部外面ハケメ、内面ヘラケズリ。口縁部外面ナデか、内面ハケメがわざかに残る。	暗橙褐色 砂粒を多く含む	81003563
Fig. 19	91 甕	6.8 8.4 8.4	口頭部はゆるやかな「く」の字状である。体部は球状で、口縁端部は薄い。	体部内外面ナデ、口縁部ヨコナデ。	暗褐色 砂粒を多く含む	81003560
	92 器台	8.7 圓 2.2	口縁部は大きく聞き、口縁端部はやや外反する。	風化の為不明瞭。	明橙褐色 砂粒を含む	81004312
	93 甕	圓 6.2 3.8	体部は半球状で、口縁部は内済する。	内外面ナデ。	暗褐色 細砂粒を含む	81004313
	94 高杯	圓 7.2	脚部の一部のみ残存する。	風化の為不明瞭。	暗褐色 砂粒を含む	81004350

遺構番号 特徴番品	土器番号 器種類	口径 器高 径	形態の特徴	整形	色調・胎土	備考
SD19 Fig.19	95 器台	幅7.2 高8.2	脚部のみ残存。裾端部はわずかに外反、穿孔あり。	風化の為不明瞭。	明褐色 砂粒を含む	81004349
	96 甕	幅15.0 高6.4	口頭部は「く」の字状である。口縁部は外反する。	体部内面へラケズリ。他はヨコナ�다。	褐褐色 粗い砂を含む	81004306
	97 甕	幅5.7	底部は「く」の字状に開き、台の形態をなしていない。	風化の為不明瞭。	褐褐色 砂粒を含む	81004316
	98 鉢	20.8 高10.4	半球状の体部に、内湾する口縁がつく。	内外面ハケメの痕跡が部分的に残る。	暗灰褐色 砂粒を含む	81004314
	99 甕	幅49.4 高9.4	口頭部のみ残存する。口縁部は外反し、底部に一条の凸帯をめぐらす。	内外面ハケ後ナデ、口縁端部不明瞭。	褐色 砂粒を多く含む	81004894
	100 甕	幅9.0	口頭部は「く」の字状である。頭部に一条の凸帯をめぐらす。	凸帯付近ヨコナデ、他はハケメ。	赤褐色 砂粒をやや含む	81004893
	101 甕	幅63.3 高7.0	体部のみ残存、球形状である。頭部に一条の凸帯をめぐらす。	体部外面上位タキ後ハケメ、下位ハケメ、凸帯部ハケメ、体部内面ハケメ。	褐色 砂粒を含む	81004385
SD 23 Fig.20	102 甕		把手の部分のみ残存。	ナデ。全体に指痕痕が残る。	明褐色 砂粒を多く含む	81004792
SD 25	103 杯身頃	幅10.4 高3.8	立ち上がりは内傾し、端部は直立する。受部は外方へ伸び、端部は丸い。底部は浅く、平底に近い。	底部外表面不定方向のヘラケズリ、体部外回転へラケズリ、口縁部ヨコナデ、内面不定方向のナデ。	灰褐色 砂粒をわずかに含む	81004497
	104 甕	幅24.6 高13.7	口頭部は「く」の字状である。口縁部はわずかに外反する。	口頭部ヨコナデ、体部外回転へラケズリ、内面へラケズリ。	黄褐色 粗い砂粒を多く含む	81003699
SK01	105 台付鉢	幅21.0 高16.8	口頭部は「く」の字状である。体部は半球状で、脚部には穿孔がある。	風化の為不明瞭。	暗褐色 砂粒を多く含む	81004366
	106 高杯	幅9.1 高16.8	脚部は外反しながら開く。	風化の為不明瞭。	褐色 砂粒を含む	81004370
	107 器台	幅14.6 高18.8	裾はゆるやかに外反しながら開く。	内外面ハケメ。端部ヨコナデ。	褐色 砂粒を含む	81004367
	108 高杯	幅36.0 高7.5	杯部のみ残る。口縁部は大きく開き、体部中位に棱をもつ。	風化の為不明瞭。	暗褐色 砂粒をわずかに含む	81004372
	109 鉢	幅31.0 高10.1	半球状の体部で、口縁部上面は内傾し、肥厚している。	ハケメの痕跡が残るが不明瞭。	褐色 砂粒を含む	81004371
SK06	110 杯蓋頃	12.6 高3.8	天井部は丸みをもち、口縁部は下方外方に開く。端部は丸い。	天井部外表面多程回転へラケズリ、内面ナデ、他は回転ヨコナデ、ロクロ回転右回り。ヘラ記号あり。	灰色 砂粒をわずかに含む	81003596
	111 甕	幅13.2 高5.2	口頭部は「く」の字状である。口縁部は外反し、端部は薄くなる。	風化の為不明瞭。	褐褐色 砂粒を含む	81004364

遺構番号 博団番号	土器番号 器種類 種	口径 高 度	形態の特徴	整 形	色調・粒土	備考
1区P291 Fig. 20	112 甕	14.8 高 6.5	口頭部は「く」の字状で、頭部に凹状のものがつく。一部しか残っていないが、めぐるものと考えられる。	風化の為不明瞭。	褐色 粗い砂粒を含む	81004383
	113 甕	高11.6 高10.2	口頭部は「く」の字状である。口縁部はわずかに外反し、端部は丸い。体部は球形である。	風化の為不明瞭。	暗褐色 砂粒を含む	81004382
1区P16	114 甕	11.2 6.6	体部は偏平な球形で、口縁部は短く外反する。	体部外面へラ状工具によるナデ、他はヨコナデ。	暗褐色 砂粒をわずかに含む	81004379
1区P40	115 甕 渠	— 高 7.0 10.5	やや肩が張る球形状の体部である。	肩部および胸部外面ヨコナデと崩壊波状文、底部外面タキ、他はヨコナデ。	灰色 細砂粒をわずかに含む	81004489
1区P28	116 甕	— 高 7.0 10.5	口頭部のみ残る。頭部は内傾し、強く外反する。口縁部は外反しながら立ち上がり、口縁部下面に凸窓がつく。	風化の為不明瞭。	褐色 砂粒を含む	81004380
4区P41	117 甕	— 高15.9 13.0	口縁端部を欠損する。ゆるやかな「く」の字をなす口縁部である。やや長胴で底部は平底である。	口頭部内面ヨコナデ、体部内面ナデ、指痕痕が残る。	内面淡褐色 外表面褐色 砂粒を多く含む	81003693
4区表土 Fig. 21	118 杯 蓋 渠	高12.2 高 4.7	天井部は平坦で深い。口縁部は下方に伸びる。口縁部下面は内傾する。	天井部外表面回転ヘラケズリ、他は回転ヨコナデ。ロクロ回転右回り。	灰褐色 砂粒をわずかに含む	81004889
3区表土	119 杯 蓋 渠	高12.2 高 4.5	天井部は平坦で深い。口縁部は下方に伸び、端部は薄く、やや外反する。	天井部外表面回転ヘラケズリ、他は回転ヨコナデ。	灰色 砂粒をわずかに含む	81004492
4区表土	120 杯 蓋 渠	高14.4 高 3.4	口縁部は下外方へ伸び、端部下面は内傾する。	回転ヨコナデ。	灰色 細砂粒を含む	81003605
3C区表土	121 杯 蓋 渠	高11.2 3.9	天井部は丸味をもち、口縁部は下方へ伸びる。端部は丸い。	天井部外表面回転ヘラケズリ、内面ナデ。他は回転ヨコナデ。ヘラ記号あり。	灰色 細砂粒を含む	81003595
	122 杯 渠	高11.4 高 4.9	立ち上がりは内傾し、端部は薄い。受部は外上方へ伸び、端部は尖がる。底部はやや丸味をもつ平底である。	底部外表面回転ヘラケズリ、内面ナデ。他は回転ヨコナデ。	明灰色 砂粒を含む	81003603
	123 杯 渠	高11.2 高 2.7	立ち上がりは短く内傾し、受部は外上方へ伸びる。	回転ヨコナデ。	灰色 砂粒を含む	81003600
4区表土	124 杯 渠	高 1.9	平底に低い高台がつく。	底部外表面ヘラケズリ、高台部ヨコナデ、内面回転ヨコナデ。	灰色 細砂粒を含む	81004886
	125 杯 渠	高 2.2	平底に低い高台がつく。	底部外表面ヘラケズリ、高台部ヨコナデ、体部外表面下位ヘラケズリ後ナデ、内面回転ヨコナデ。	青灰色 砂粒をわずかに含む	81004887
126 高 杯 渠	高 7.6	脚部のみ残存。	脚部外表面ヨコナデ、中位に2条の沈線を施す。内面ヨコナデとシボリ痕。	青灰色 砂粒をわずかに含む	81004891	
2区表土	127 甕 渠	高13.7	長頸部の頭部のみ残存。外反しながら開く。	シボリ痕とヨコナデ。	明灰色 細砂粒を含む	81003587
3C区表土	128 甕	高 8.8	頭部はやや内傾する。	風化の為不明瞭。	暗褐色 砂粒を含む	81004351

遺構番号 神田番号	土器番号 器種類	口徑 器深	形態の特徴	整 形	色調・胎土	備 考
Fig. 21	129 壺 須	Φ23.8 例 7.5	口縁部は「く」の字状である。口縁部は外反し、肩部は肥厚する。	ヨコナデ。	灰褐色 砂粒をわずかに含む	81004890
2区表土	130 壺 須	Φ12.0 20.0	体部は偏平な球形で、肩がやや張る。	底部外面汚程へラケズリ、他外面カキメ、肩部内面ヨコナデ、他はナデ。	灰色 砂粒を含む	81004490
4区表土	131 壺 須	Φ8.4 例 10.5	口縁部はゆるやかに外反する。肩部は張っている。	体部外面下位へラケズリ、内面ヨコナデ。	灰色 砂粒を含む	81004500
3A区表土	132 高 杯	Φ30.6 例 5.0	逆L字状の口縁部である。口縁端部上面は外方へや下がる。	口縁端部ヨコナデ、杯部内外面ハケメ。	暗褐色 砂粒を含む	81004352
SH01	133 鉢	4.4 2.1	手捏土器である。体部は半球状である。	ナデ、指頭痕残る。	暗灰色 砂粒をわずかに含む	81003524
2区表土	134 壺	Φ3.5	手捏土器である。口縁部はゆるやかな「く」の字状で、体部は丸い。	ナデ、口縁部に指頭痕残る。	淡赤褐色 砂粒を含む	81004795
SH24	135 鉢	4.0 2.6	手捏土器である。体部は半球状である。	ナデ、指頭痕残る。	橙褐色 細砂粒を含む	81003555
SH40	136 鉢	2.6 2.5	手捏土器である。器壁が厚い。	ナデ、指頭痕残る。	暗褐色 砂粒を含む	81003577
	137 鉢	例 4.3	手捏土器である。体部は長脚気味で、底部は平底である。	ナデ。	橙褐色 砂粒を含む	81003576
SH38	138 鉢	13.0 5.2	平底気味の底部に、体部はやや内湾しながら開く。	ナデ、指頭痕残る。	褐色 やや粗い砂粒を含む	81003573
SH29	139 土 製 品	Φ 3.1 例 1.2	筋跡單か。やや歪んだ円形で、ほぼ中央に 0.7cm の孔が穿ってある。	不明瞭。	赤褐色 砂粒を含む	81004793
SH24	140 土 製 品		動物であろうが、足・首・尻尾の部分を欠損しているため不明。	ナデ。	褐色 粗い砂粒を含む	81003557
3C区包含層	141 土 製 品	(Φ)4.2 例 1.9	ラグビーボール型のものである。	ナデ。	褐色 砂粒をわずかに含む	81003568

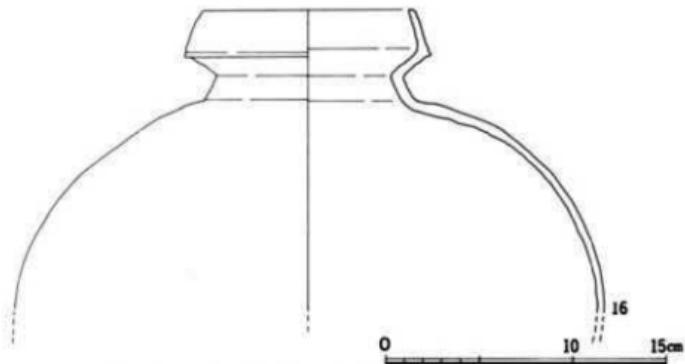
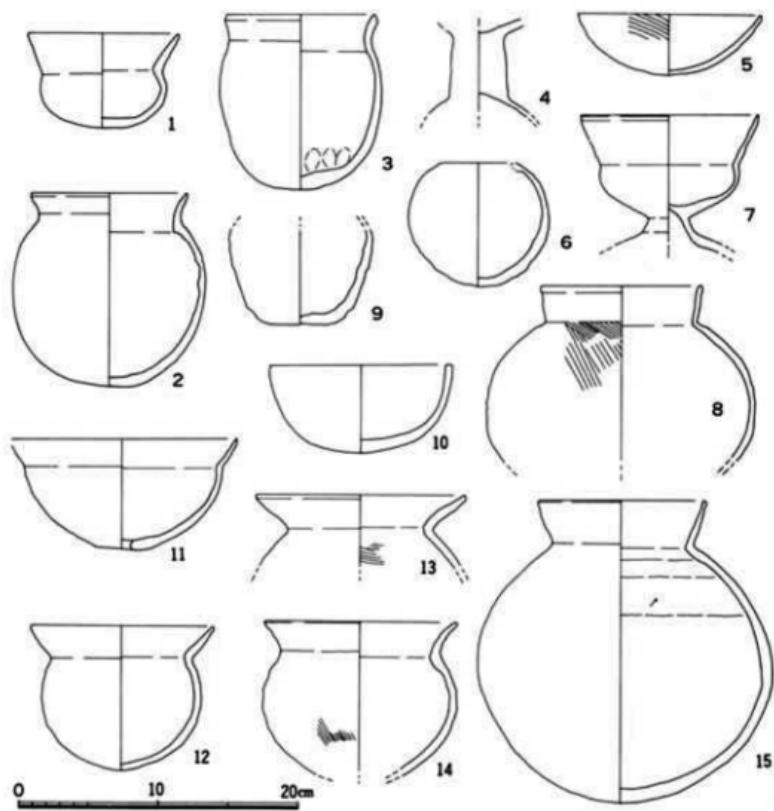


Fig. 12 SH01, 03, 04, 06, 08, 住居跡出土遺物実測図

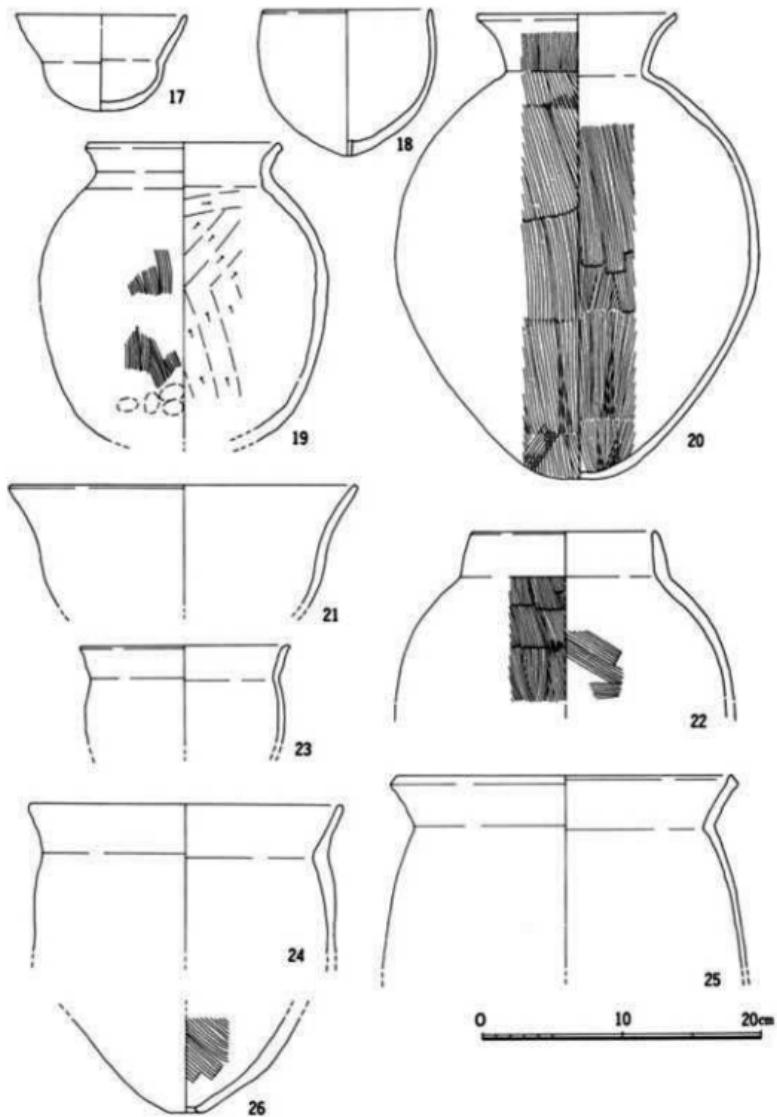


Fig. 13 SH09, 11, 13, 15住居跡出土遺物実測図

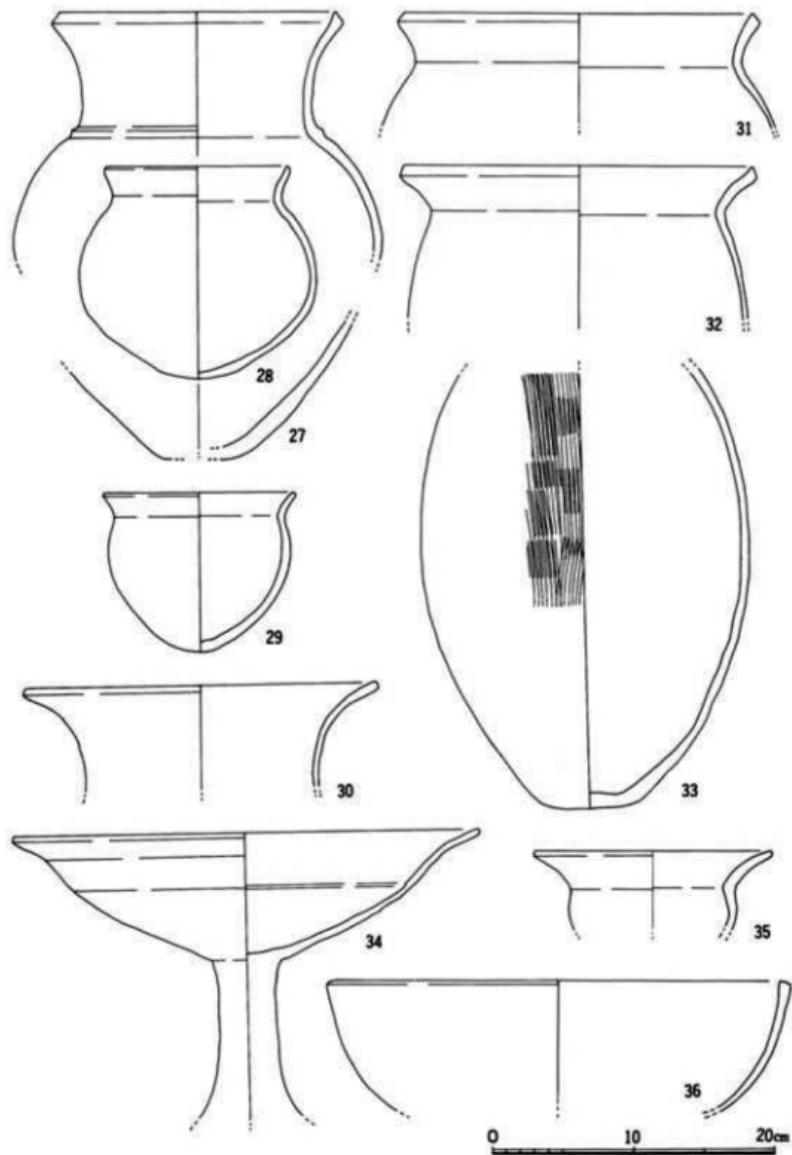


Fig. 14 S H23住居跡出土遺物実測図

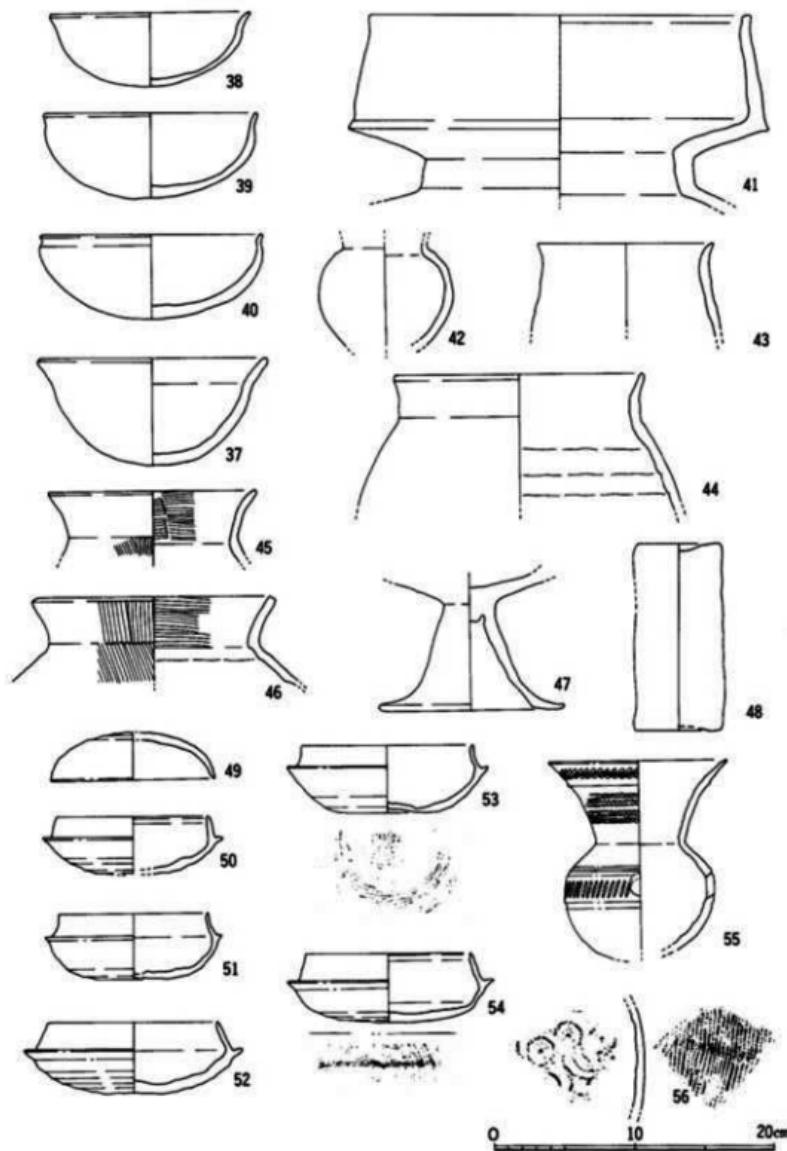


Fig. 15 S H23, 24住居跡出土遺物実測図

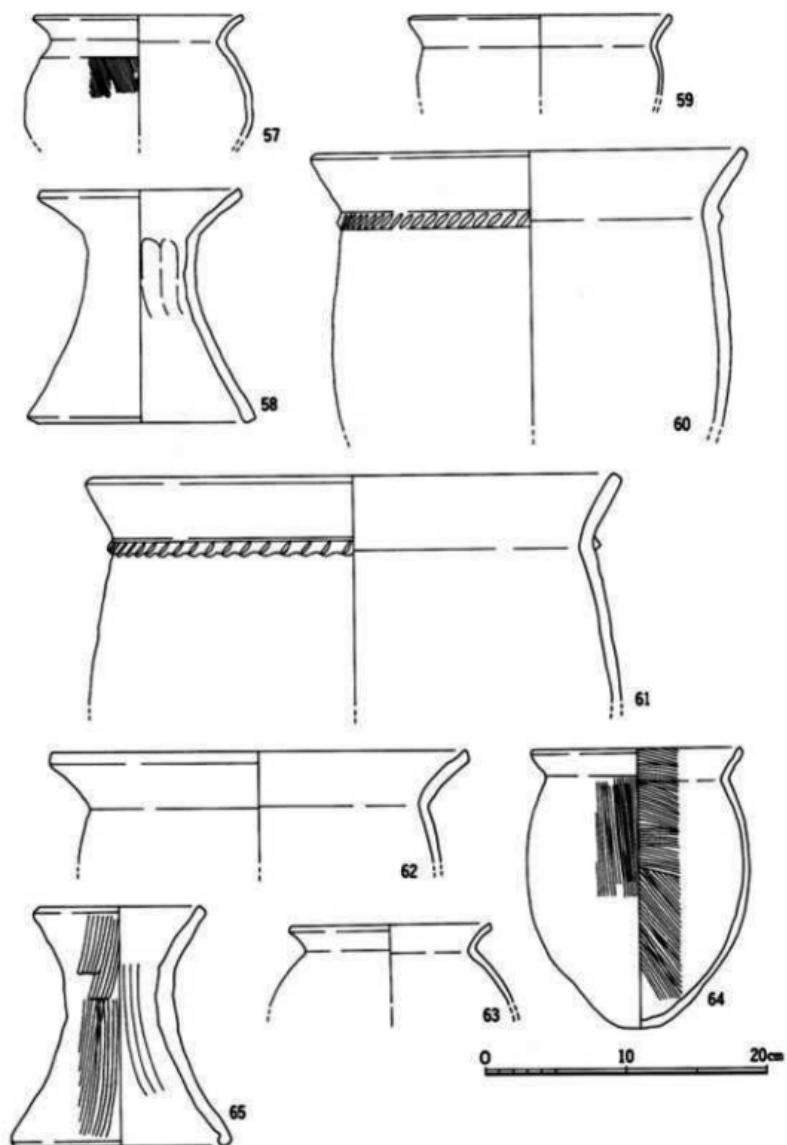


Fig. 16 S H 25, 26, 27住居跡出土遺物実測図

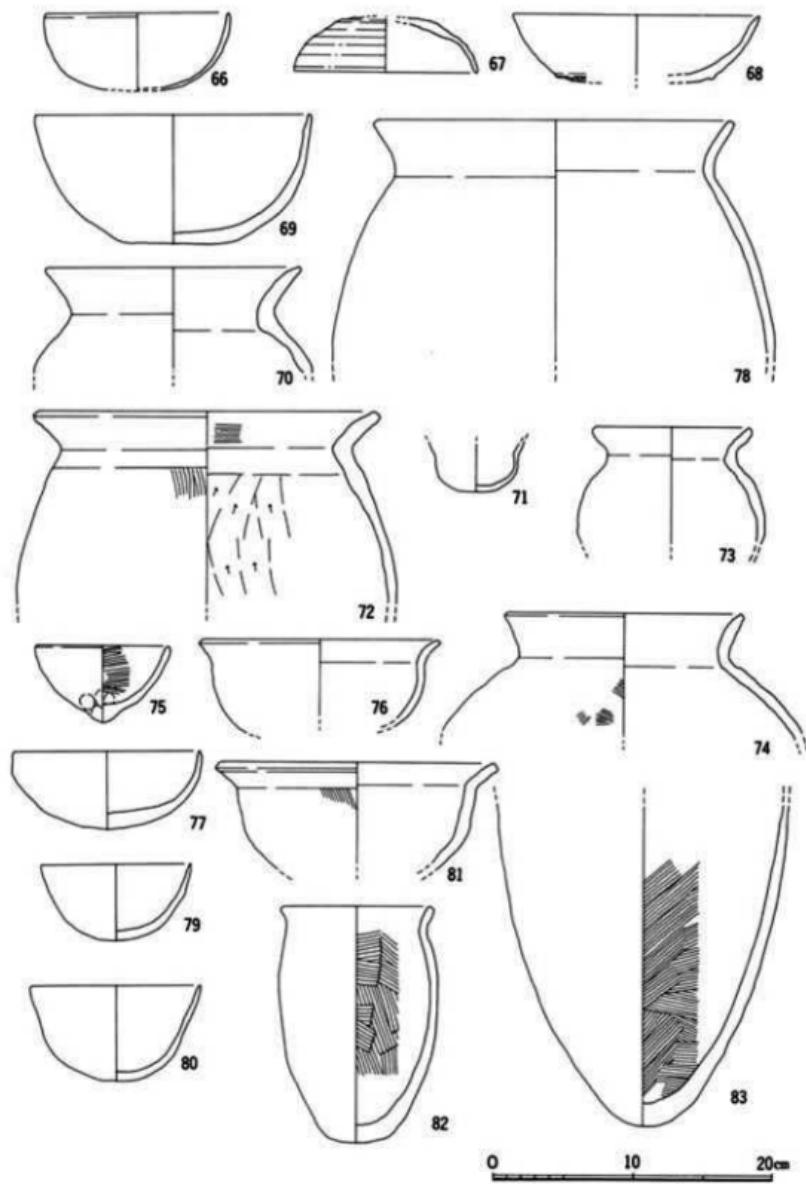


Fig. 17 SH29, 31, 36~41住居跡出土遺物実測図

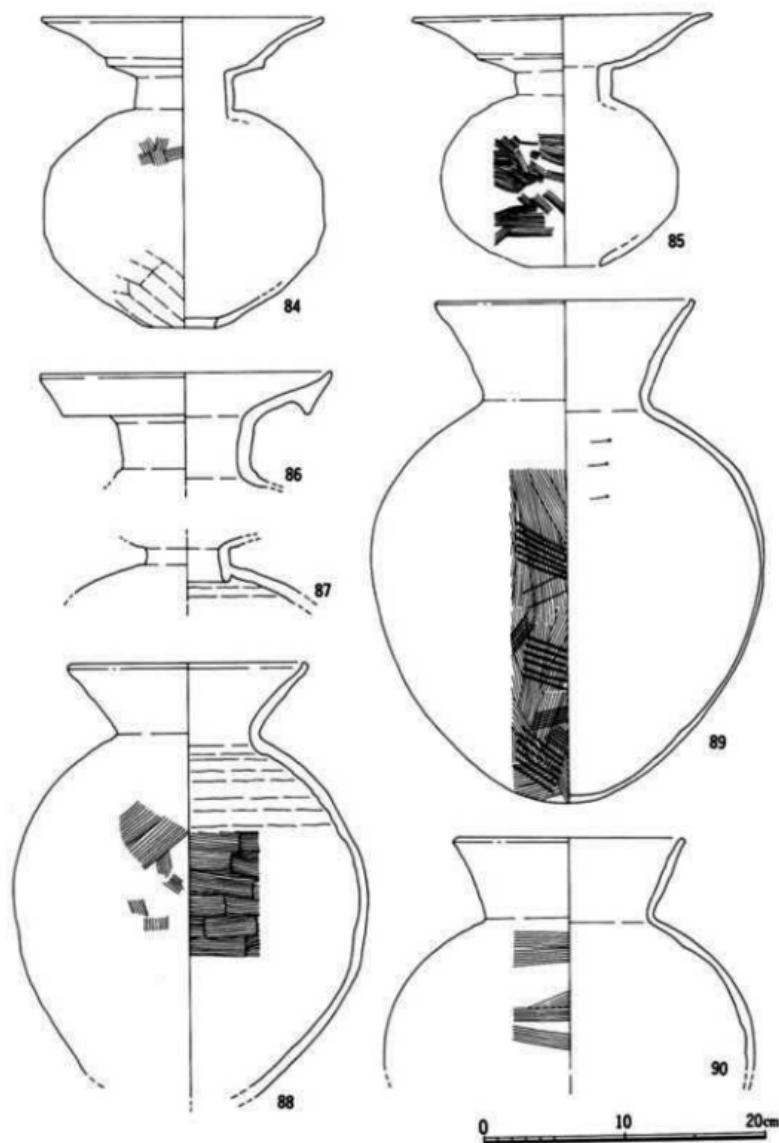
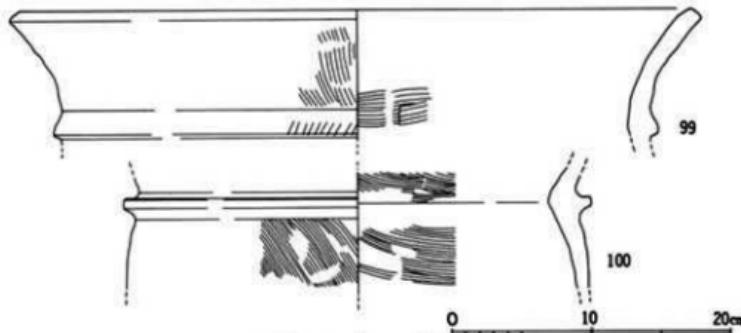
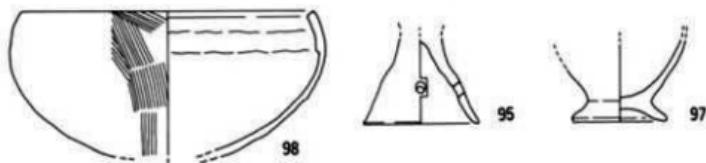
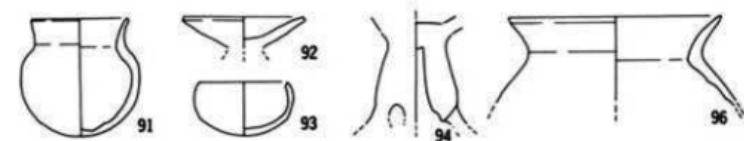
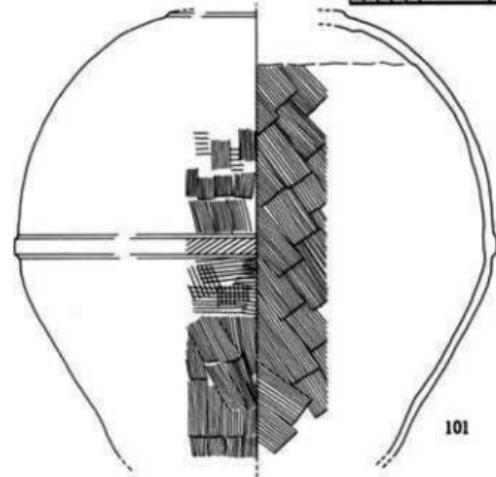


Fig. 18 SD 19满出土遺物実測図



0 10 20 cm



0 20 40 cm

Fig. 19 S D 19溝出土遺物実測図

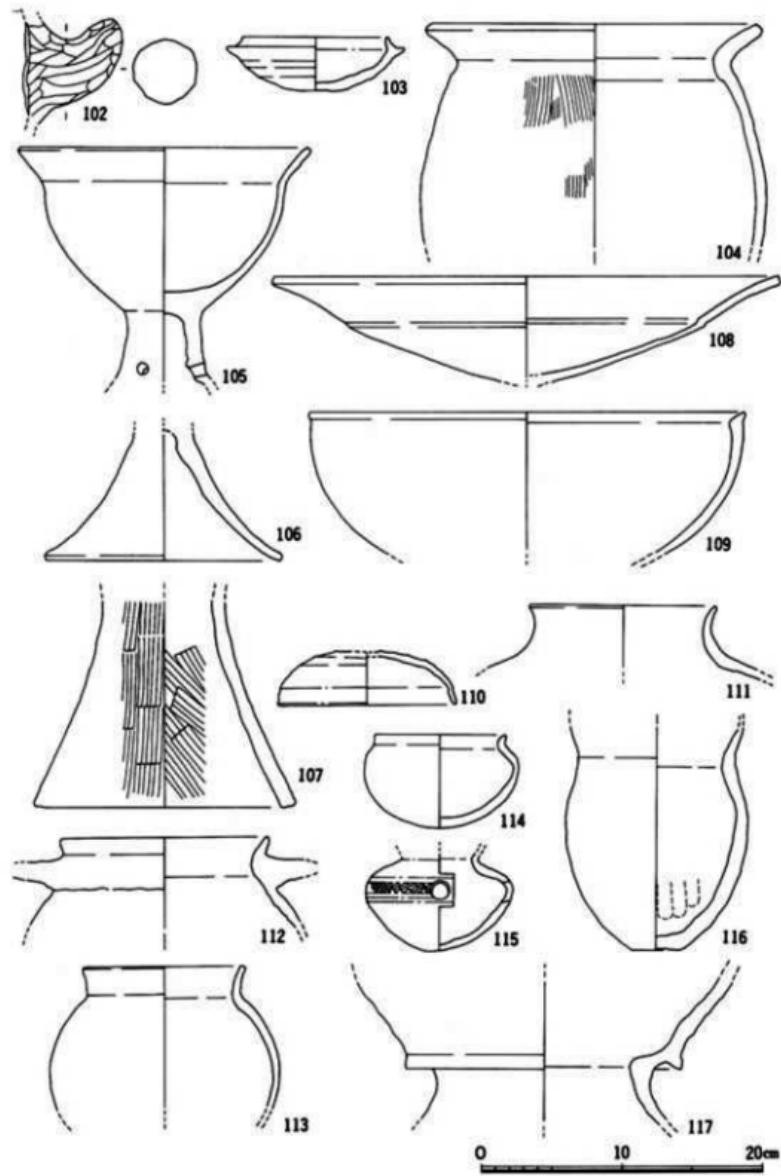


Fig. 20 S D23, 25溝, S K01, 04土壤, 1区および4区ピット出土遺物実測図

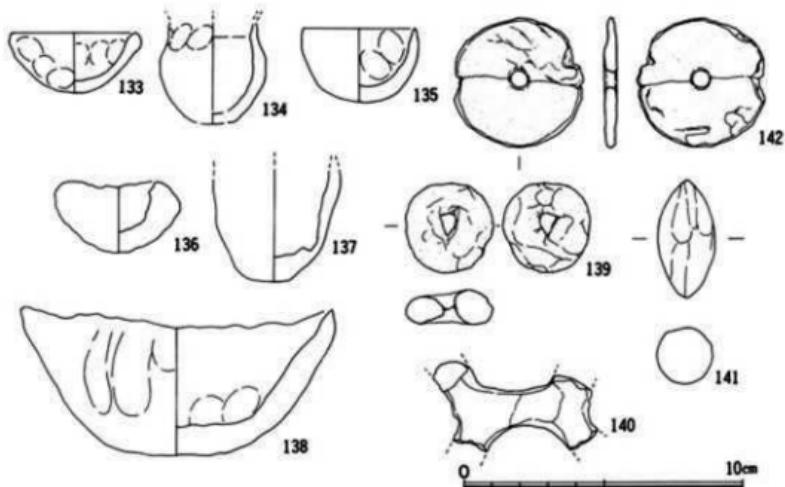
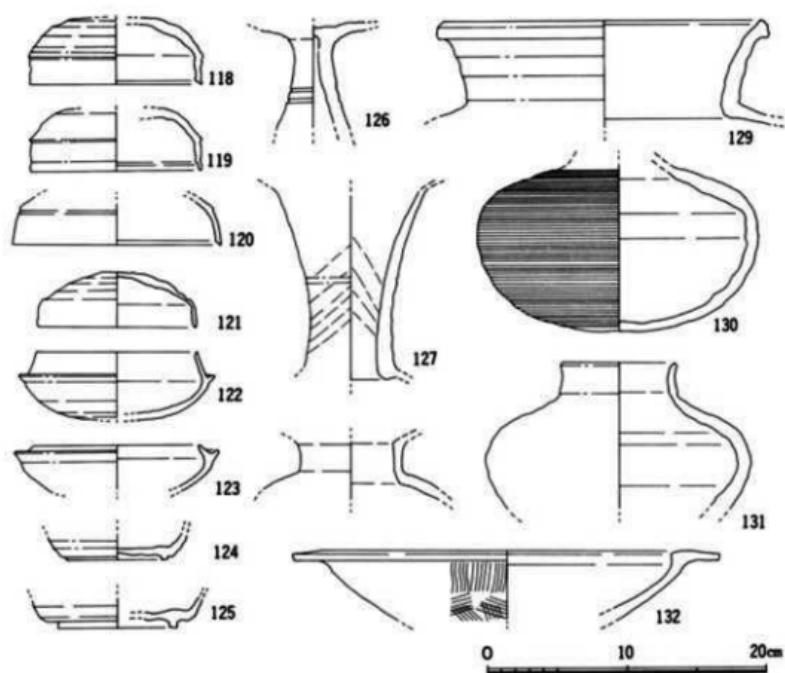


Fig. 21 包含層出土遺物および手捏土器、土製品、石製品実測図

## 2. 石 器

Tab. 4 出土石器および石製品観察表

番号	器 様	出土地点・遺構番号	石 材	法量(長さ-幅-厚さ)(mm)	特 徴
142	纺錘車	2区 黒色土	不明	4.6-4.5-0.5-14.5	ほぼ完形。中央に孔を穿つ。 81004387
143	尖頭器	2区 東側黑色土	黒曜石	(2.2)-1.1-0.6-1.5	細長斜片を素材として、両面に細かい深形調整をおこなう。一部分のみ。石器の可能性あり。 81004386
144	平基無茎石器	1区 表 土	サヌカイト	2.0-1.8-0.7-1.5	やや荒い調整で仕上げており、厚みがある。一部欠損。 81004389
145	削 器	1区 表 土	サヌカイト	(5.8)-5.8-1.0-43.5	片面に若干研磨面を残すやや細長の削りに、両面から両端に横彫形のウロコ状細部調整を行う。 81004390
146	石 鞍 丁	2区 黒褐色土	緑色片岩	縦孔開長 3.2 厚さ 0.6 18.5	背部はほぼまっすぐ伸びる。 81004388
147	偏平片刃石斧	1区 SD 02	頁 岩	6.5-2.1-0.8-21	刀部と基部の一部を欠損。 81004391
148	太形蛤刃石斧	3区 SK 03 埋土上位 (今山座)	玄 武 岩	(8.0)-7.3-4.0-341	刀部の一部のみ。表面は磨耗している。 81004396
149	砾 石	3区 SH 24	砂 岩	(8.4)-5.4-5.3-287	半分欠損。側面の4面を使用。 81004393
150	砾 石	4区 中央包含層	砂 岩	(15.8)-(13.9)-2.2-746	偏平で一部欠損する。両面を使用。 81004399
151	砾 石	4区 SH 38	砂 岩	15.6-9.6-4.5-650	ほぼ完形。やや偏平で小口を除く、4面とも使用。 81004394

## 3. 資 料 の 保 管

出土遺物、遺構実測図、遺物実測図、遺構写真、遺物写真、トレース図等については佐賀県文化課文化財資料室（佐賀市水ヶ江一丁目12番9号、佐賀県東別館内、電話0952(23)4537）で保管、管理している。遺物には個々に登録番号を付し、実測図、写真にも同じく登録番号を付している。遺物実測図については約半数がマイラーで縮図し、二重の保管体制を執っている。また、遺物実測図は約半数が縮図したものを、写真についてはベタ焼きにしたものを作成している。遺物で現在県に保管しているものは、将来的には各市町村に返還する方向で整理を進めていきたい。

(1) 遺物登録番号 8100-3293-3295, 3524-3600, 3690-3700, 4301-4400, 4476-4500, 4791  
~4800, 4886-4898

(2) 遺物実測図登録番号 003363-003427

(3) 遺構写真登録番号 (4×5) 79-1183-1239, 1290-1301, 1362-1371, 1514-1530, 1661-  
1665, 1765-1796, 2069-2097, 2231-2242, 2303-2310,  
2489-2490

(35mm) 80-0084-0097, 0160-0218, 0235-0239

(35mm) 79-0213-0215, 0222-0232, 0244, 0245, 0293-0298, 0333-  
0336, 0361-0364, 0366, 0367, 0406, 0407

(4) 遺物写真登録番号 (4×5) 83-0001-0030

(6×7) 83-0001-0123

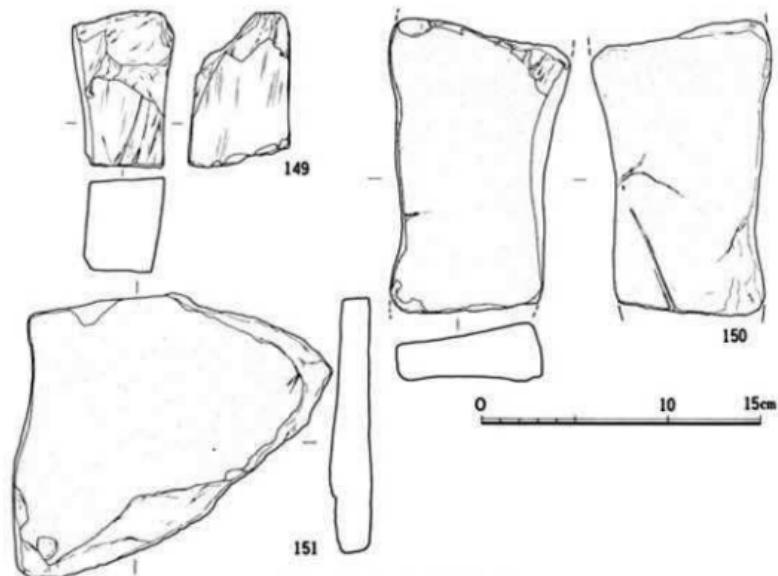
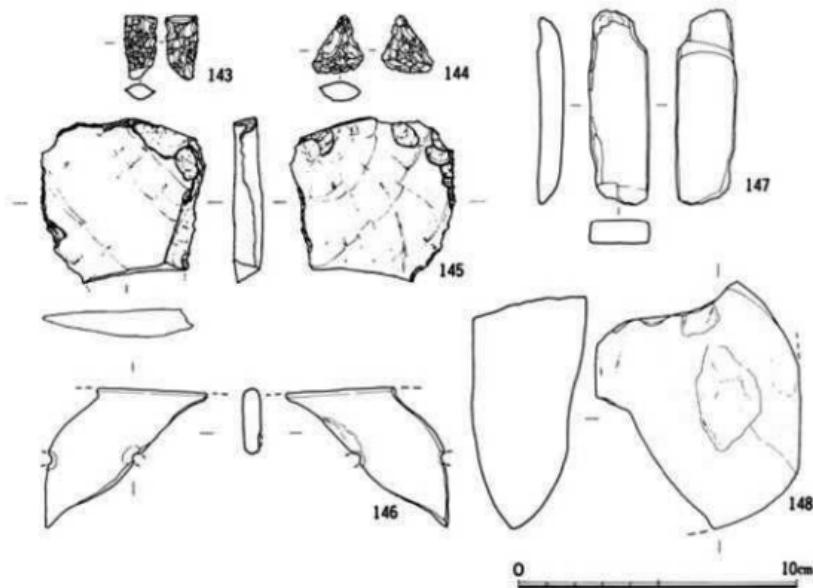
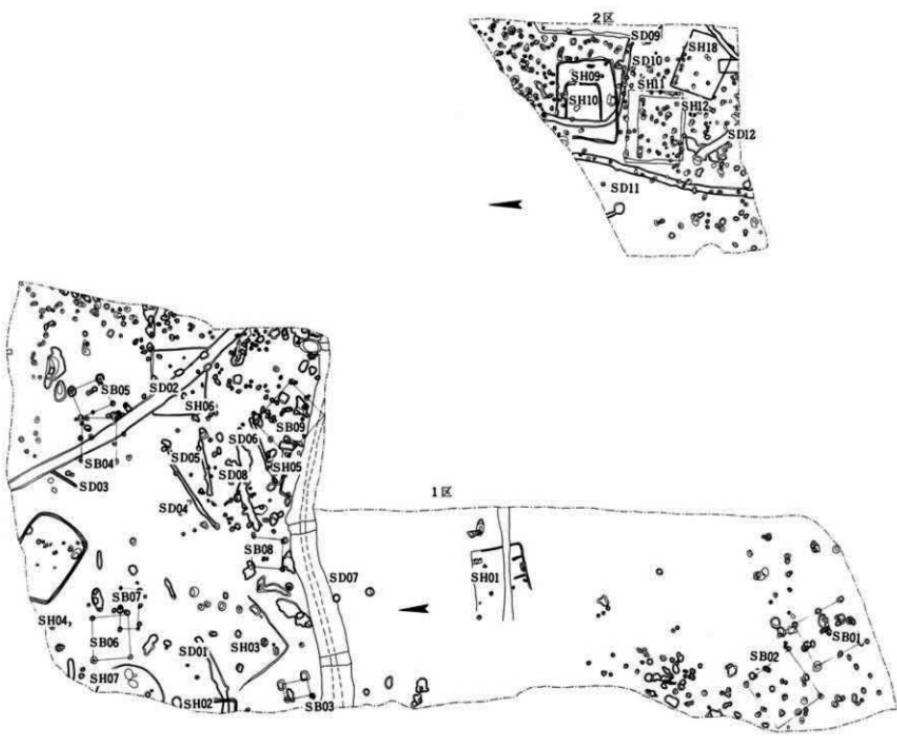
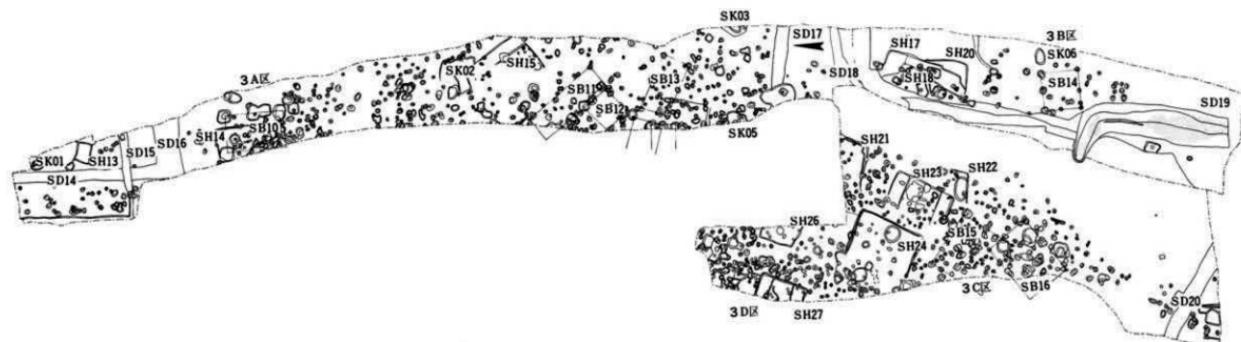


Fig. 22 出土石器実測図





松の森遺跡遺物配置図 (2)

0 5 10 15

# 図 版



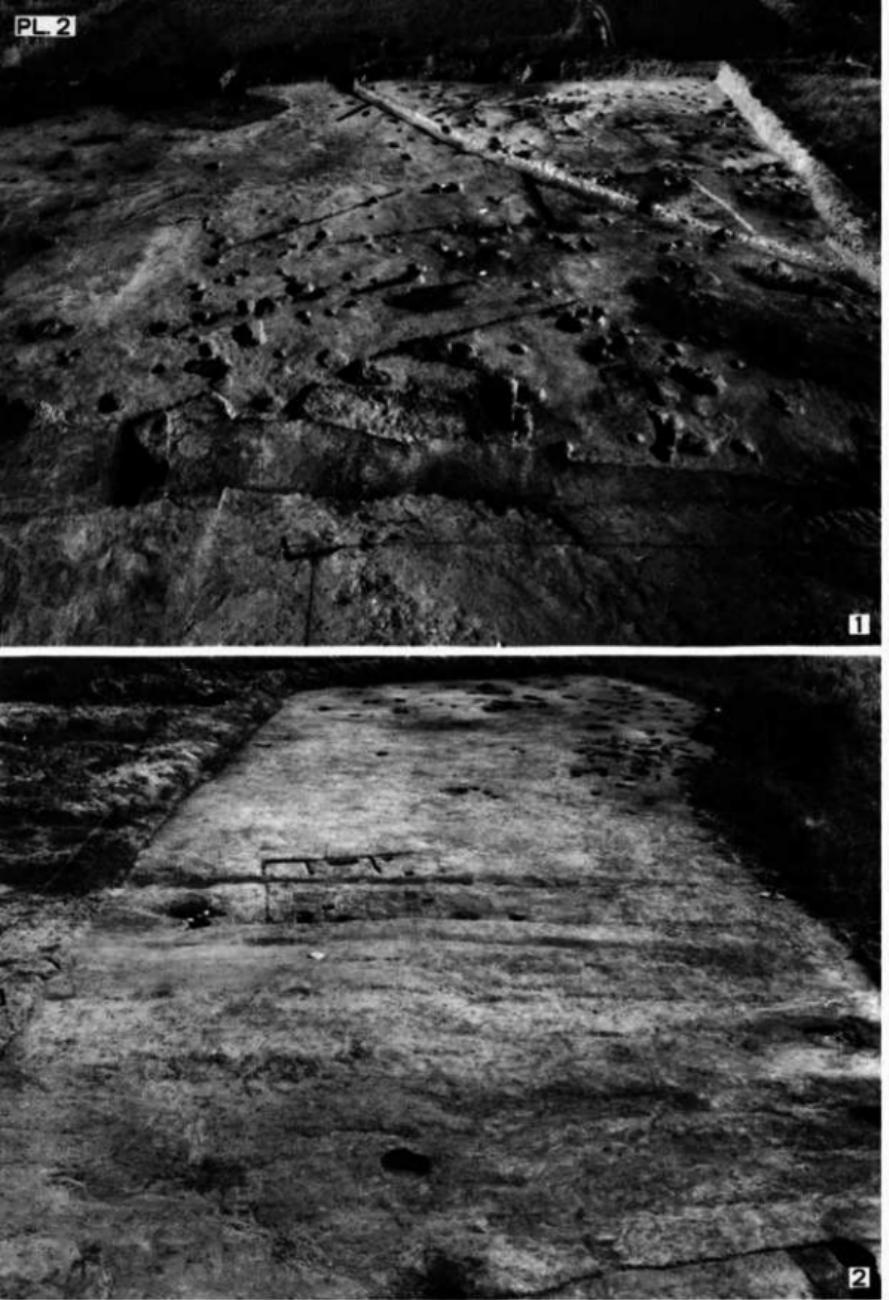
1



2

1. 松ノ森遺跡全景（南から）

2. 4区全景（西から）



1. I区北側（南から） 2. I区南側（北から）



1



2

1. 2区 (南から)

2. 3A区 (南から)

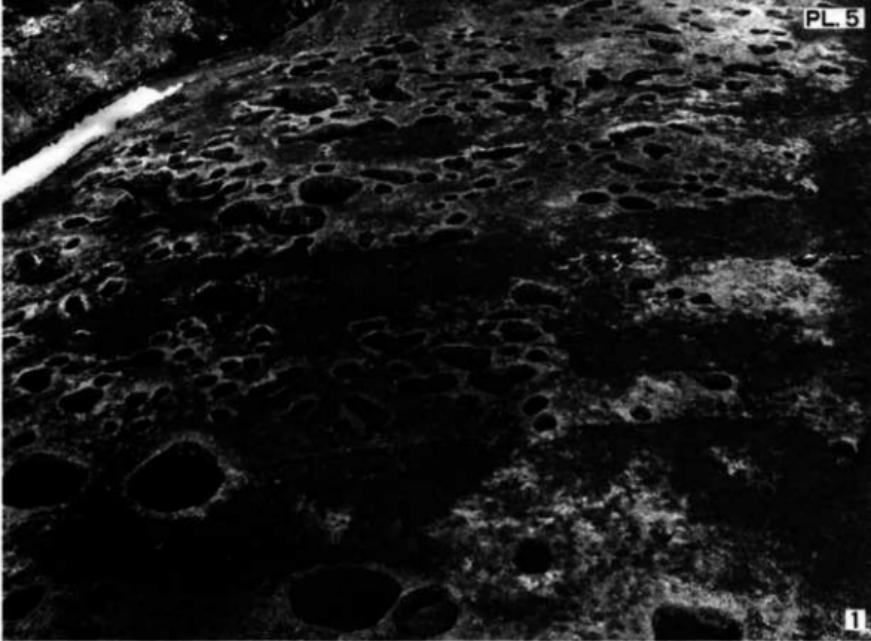


1



2

1. 3B区（北から） 2. 3D区（南から）



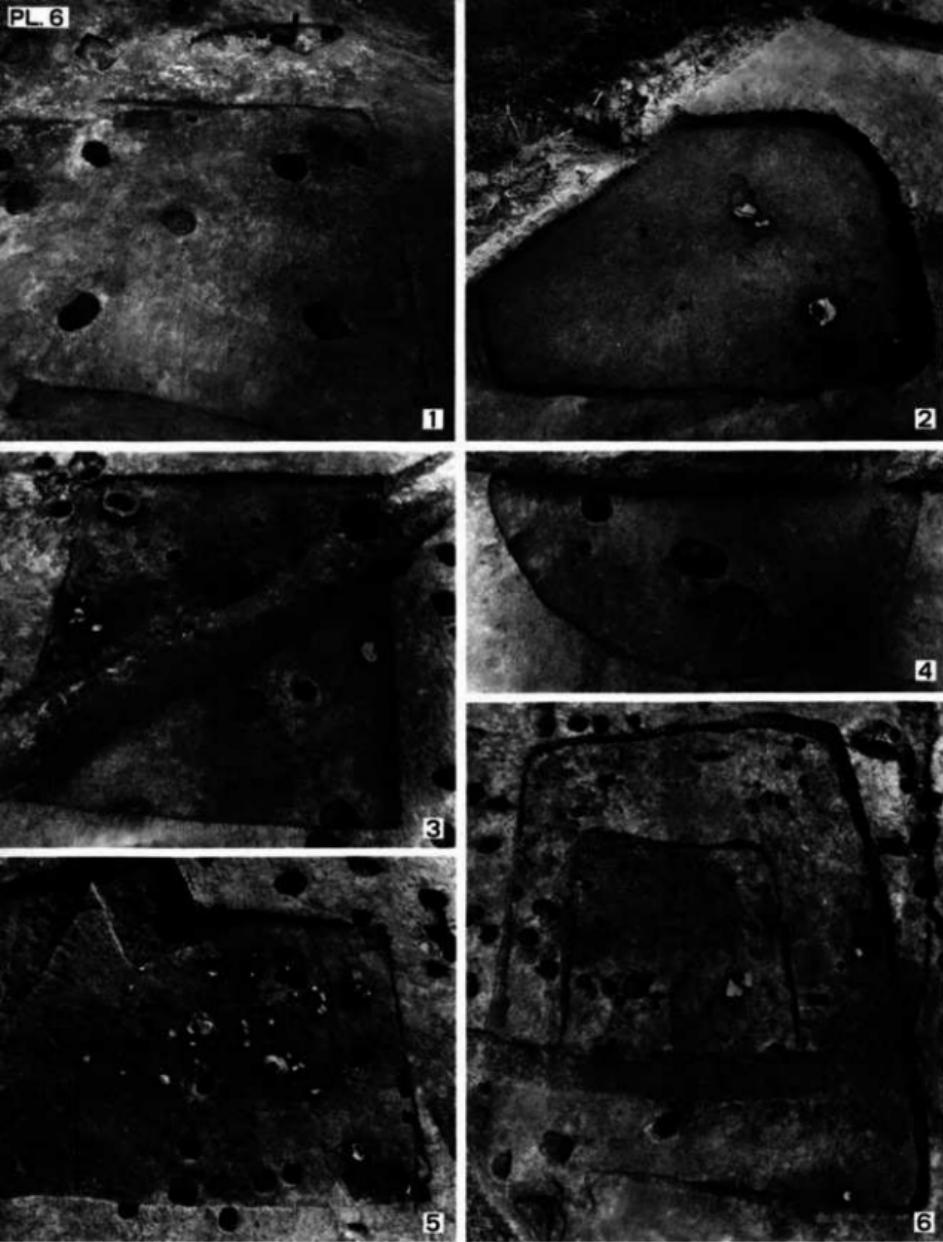
1



2

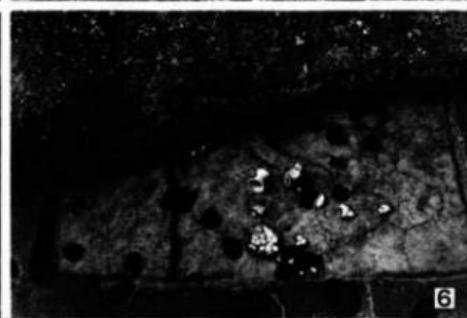
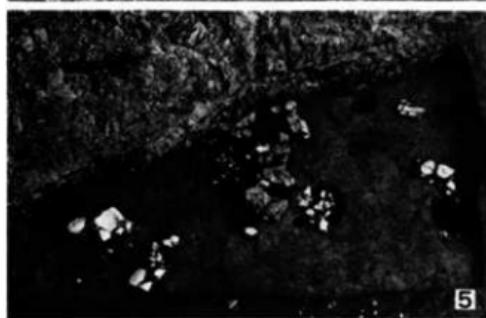
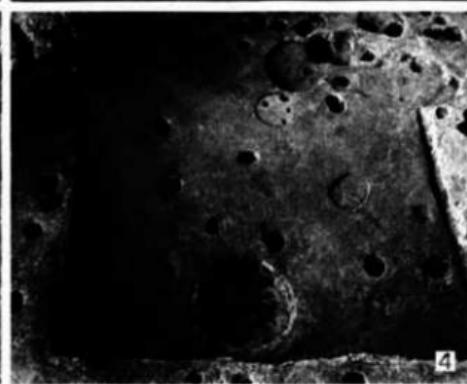
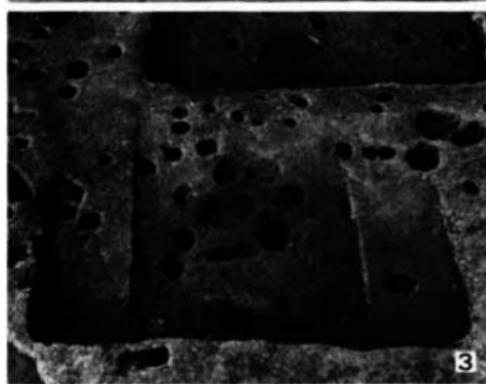
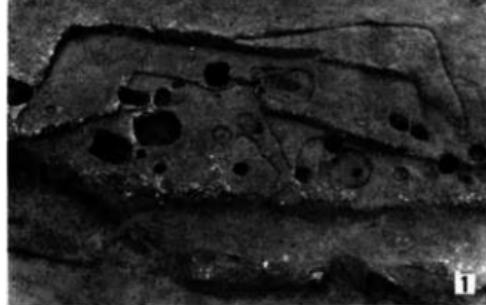
1. 4区北側（南から）

2. 4区南側（北から）

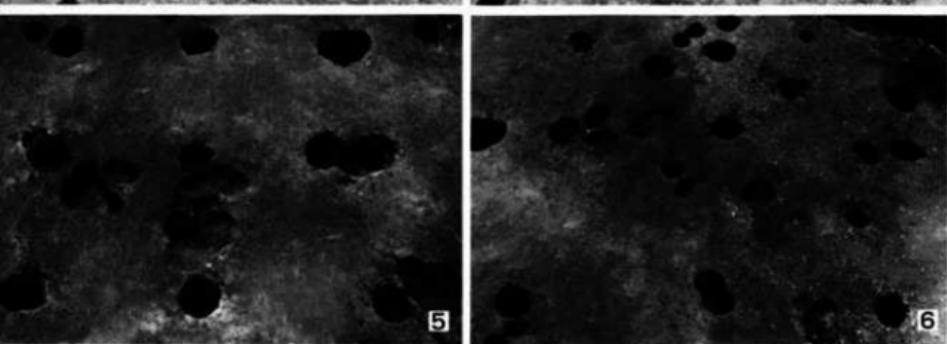
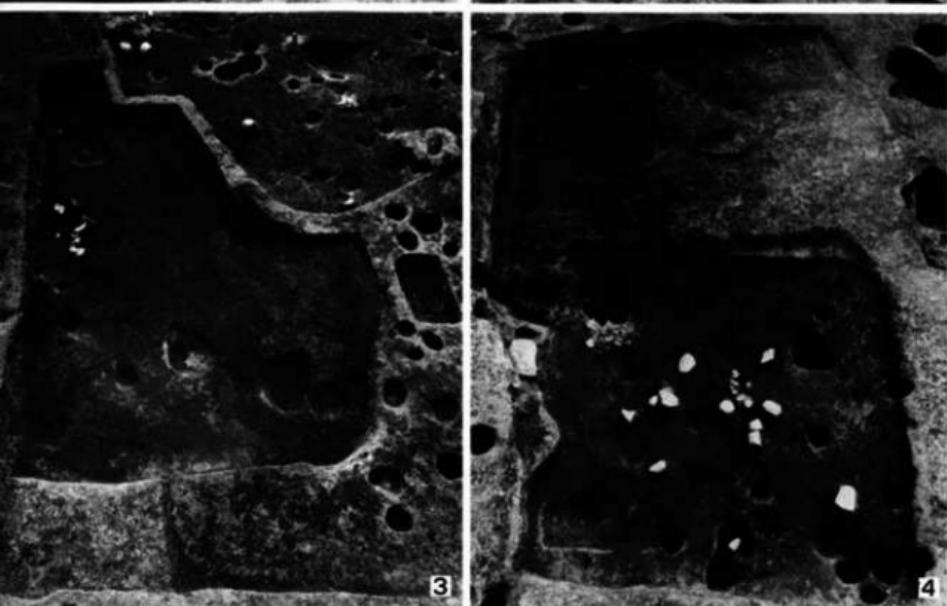
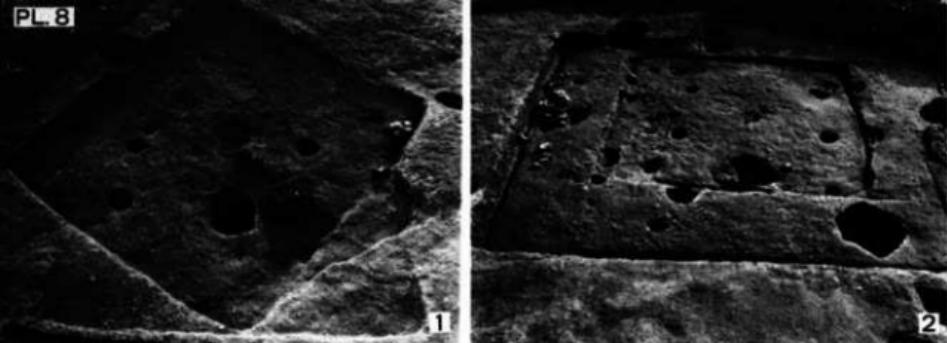


1. 1区 SHO3 (北から) 2. 1区 SHO4 (南西から) 3. 1区 SHO6 (西から)

4. 1区 SHO7 (東から) 5. 2区 SHO8 (北から) 6. 2区 SHO9・10 (西から)



1. 3B区 SH17~20 (西から)    2. 3C区 SH23・24 (東から)    3. 3C区 SH23 (東から)  
4. 3C区 SH24 (東から)    5. 3D区 SH26 (西から)    6. 3D区 SH27 (東から)



1. 4区 SH28・29 (北東から)

4区 SH39

2. 4区 SH31・32 (北から)

1区 SB01

3. 4区 SH38 (北から)

(東から)

6



1. 3B区 SD19 (南から) 2. 3B区 SD19 (西から) 3. 3B区 SD19 (東から)



1



7



2



8



3



10



5



18

SHO1 出土土器 1

SHO3 出土土器 2・3

SHO4 出土土器 5・7

SHO6 出土土器 10

SHO9 出土土器 18



11



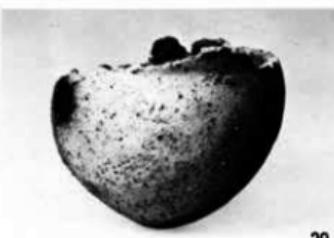
12



22



25



29



15



20



34

SH08 出土土器 11·12·15

SH11 出土土器 20·

SH15 出土土器 22·25

SH23 出土土器 29·34



38



49



39



52



40



53



47



54



48



55



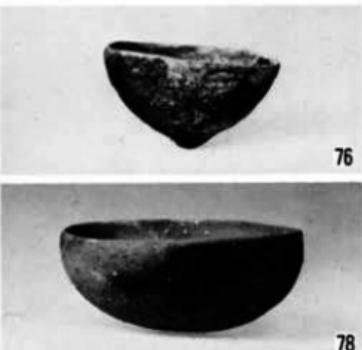
58



59



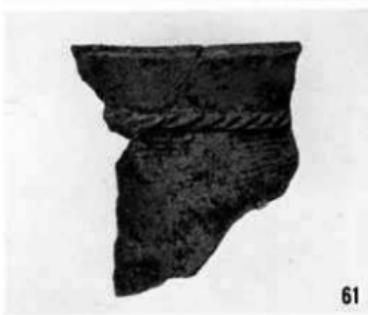
60



61



62



63

SH25 出土土器 65

SH26 出土土器 61

SH27 出土土器 58·64

SH38 出土土器 76

SH40 出土土器 78

SH41 出土土器 80·82



64



84



85



88



89



90



101



86



87



105



110



135



112



136



114



137



115



142



石器類

SH24 出土土器 135

SH40 出土土器 136・137

SK01 出土土器 105・110

1区P16 出土土器 114

1区P40 出土土器 115

1区P291 出土土器 112

2区 出土石器 142

佐賀県文化財調査報告書第70集

## 松の森遺跡

昭和58年3月30日印刷

昭和58年3月31日発行

発行 佐賀県教育委員会  
佐賀市城内1丁目

印刷 鹿島印刷株式会社

